令和４年度　国土交通省補助事業

令和４年度

木造住宅・都市木造建築物における生産体制整備事業

（うち、大工技能者等の担い手確保・育成事業）

事業成果報告書

令和５年３月

一般社団法人 木を活かす建築推進協議会

目 次

1）団体主導型による取組概要

①全国建設労働組合総連合 …… 1
②（一社）JBN・全国工務店協会 …… 7
③（一財）住宅産業研修財団 …… 12
④（一社）全国木造建設事業協会 …… 17
⑤（一社）全国住宅産業地域活性化協議会 …… 20
⑥（一社）全国古民家再生協会 …… 26
⑦（一社）日本 CLT 協会 …… 31

2）地域連携型による取組概要

①（一社）北海道ビルダーズ協会 …… 36
②（一社）東北建設技能協会 …… 47
③日本の伝統的大工塾 …… 57
④（一社）福島県工務店協会 …… 61
⑤（一社）東京大工塾 …… 68
⑥（一社）にいがた木造建築協会 …… 73
⑦（一社）石川県木造住宅協会 …… 77
⑧（一社）富士山木造住宅協会 …… 81
⑨愛知県建設団体協議会 …… 85
⑩（一社）宮崎県建築業協会 …… 89

3）令和４年度実施概要 …… 92

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

建築大工の担い手確保・育成支援事業

令和5年3月7日

全国建設労働組合総連合

令和4年度　建築大工の担い手確保・育成支援事業（全国建設労働組合総連合）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**茨城県、東京都、神奈川県、愛知県、島根県、広島県、徳島県（長期訓練全7地域）**	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年2月9日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：長期54名（男性51名、女性3名）** **短期46名（男性44名、女性2名）**
受講者属性	種別	**大工：長期54名（見習いを含む）** **大工：短期46名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：　**2名**　　30歳代：**24名** 20-24 歳：**47名**　　40歳代：　**4名** 25-29 歳：**23名**
座学・実技研修（長期のみ）	座学	**68回**（茨城：6回、東京：1回、神奈川2回、愛知17回、島根7回、広島31回、徳島4回）
	実技	**116回**（茨城：18回、東京：10回、神奈川8回、愛知8回、島根17回、広島44回、徳島11回）
	計	**184回**（茨城：24回、東京：11回、神奈川10回、愛知25回、島根24回、広島75回、徳島15回）

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○長期訓練では、技能者の処遇改善に向けてCCUSの技能者情報登録を促進するとともに、建築大工技能者能力評価基準において、レベル2以上の判定を受けられることを目標にしカリキュラムを設定した。
○座学では「安全衛生教育」「建築工事概論」など基本的なことを中心に設定しながら、「木造軸組み住宅概論」「JW-CAD」「設備機器との関係」などより専門的な内容を学んだ。CCUS制度についての講習も一部取り組んだ。
○実技では、「継手の加工」「規矩術講習」など基本的な技術習得を中心に繰り返しつつ、「和室造作実技」「階段廻り加工」など実践的な内容を盛り込んだ。
○左に記載の集合訓練を主体に、補完的役割として分散訓練(OJT)を42名を対象に1470時間実施。
○長期受講が困難な若年大工技能者を対象に、短期訓練を実施。短期訓練は「現寸図作成」「部材組立加工」に絞って講習。14地域46人が受講。102回512.5h実施。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○成果目標として掲げた受講者・講師のCCUS登録率等で大きな進捗が見られた。
・受講者 CCUS技能者登録率＝1.9%→27.8%、レベル2以上判定率＝0.0%→46.7%
・講師　 CCUS技能者登録率＝2.2%→65.2%、レベル3以上判定率＝0.0%→83.3%
○建築大工技能者職業能力評価基準をベースにした簡易版評価シートで、講師評価受講前1.0→受講後2.6、事業者評価受講前0.9→受講後2.5、ともに大きな成果が見られた。
○受講者アンケートで理解度や、技術・技能に関する自己評価が83.3%。講師アンケートでも「向上した」が85.7%と高い水準。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○技能者の育成・担い手確保に重要な役割を持つCCUSに関する理解を受講者の所属事業所に広げる必要がある。
○受講生が継続的に訓練に参加しやすいように、わかりやすい目標を節目節目に位置付けてあげることが必要。
○手刻み等の技術について「こうした講習の場でこそ学ぶ必要がある」とう声の一方、「普段の現場で使える技能を学びたい(教えたい)」という声が講師・受講者双方にある。受講者の希望や地域の実情にあわせて丁寧なカリキュラム構成が引き続き必要となる。

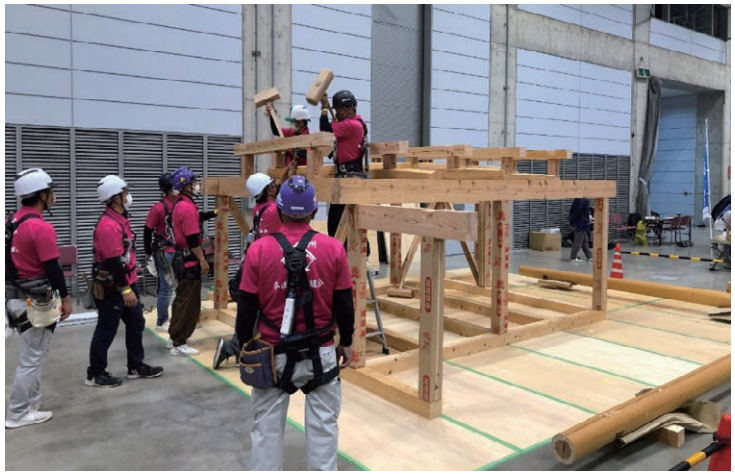
令和4年度　建築大工の担い手確保・育成支援事業（全国建設労働組合総連合）【育成】

長期・集中訓練
2022年10月9日　茨城県連（水戸）
Lv2(実技)　直階段・折れ階段の加工・組立

長期・集合訓練
2022年11月27日　神奈川県連
Lv2(座学)　労働安全衛生管理

短期訓練
2022年6月19日　建労岡山
若年大工技能向上講習
（現寸図作成及び部材組み立て加工）

長期・集合訓練
2022年11月10日　全建愛知
Lv1(座学)　JW-CADを用いた壁量計算の平面図作成



長期・集中訓練
2022年10月30日　島根建連
Lv2(実技)　建て方　ミニ上棟式

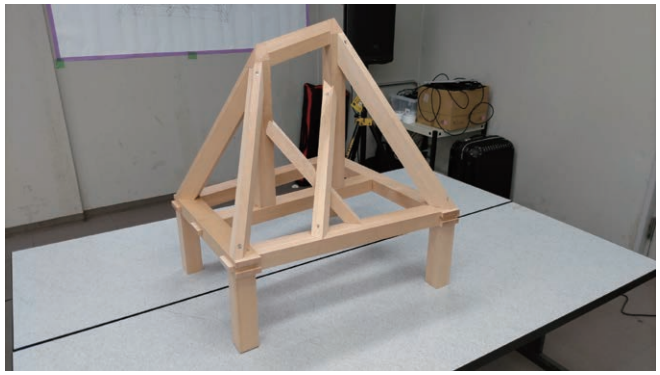
長期・分散訓練
2022年11月8日　東京都連
建築現場　面取り・コンセント開口

令和4年度　建築大工の担い手確保・育成支援事業（全国建設労働組合総連合）【育成】

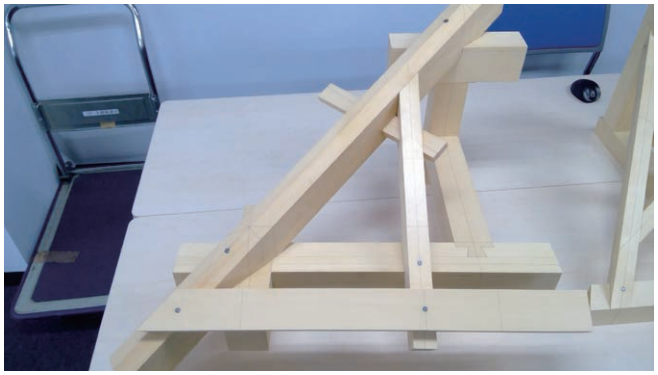
長期・集合訓練　茨城県
振隅木小屋組

長期・集合訓練　　広島県
隅木ひよどり栓

長期・集合訓練　　島根県
ミニ障子



短期講習課題見本①
柱建て小屋組



短期講習課題見本②
隅木ひよどり栓

短期講習課題見本③
屋根筋交い

令和4年度　建築大工の担い手確保・育成支援事業（全国建設労働組合総連合）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**広島県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年2月9日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：6名**（男性5名、女性1名）
受講者属性	種別	**大工関係者：0名** **その他（建築科工業高校生）：6名**
	年齢構成	20歳未満：**6名**
座学・実技研修	座学	**0回**
	実技	**1回**（広島会場：1回）
	計	**1回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

○広島県立「宮島工業高校」建築部2～3年生6人。職業体験として木製梯子の作成を指導。
○ノミ、のこぎり、カンナ等を使用して梯子を作製。最初に図面を配布し説明。墨付けをして加工。
○生徒たちは自分たちノミやカンナの使い方、加工の姿勢が講師と異なることに対して「そんな加工方法があるのか」「今の技は何ですか」など、とても興味を示していた。
○隙間がなく表面はカンナで丁寧に仕上げられているプロの職業人としての大工の仕事を見て、仕事としての大工技能に興味を持ってもらえた。
○学校側からも「実際の職場や何をするのかまでは通常把握できないが、実習を通じて人を通して生徒も理解が進むため、キャリア教育としての効果が大きい」との声。
○建設現場における女性従事者の実態把握と、それらを活用した入職定着促進を目的に女性従事者交流会を6月に予定していたが、感染症の影響でやむなく中止とした。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○教育機関(工業高校)へのアンケートでは「建築大工への理解が深まった」との回答で、「機会があれば来年度も実施したい」と前向きな意見。
○受講者(生徒)へのアンケートでも「十分深まった」が100%と非常に高い評価。
○「出来れば大工になりたいと感じているが、少し迷っている。今回のことも良い体験になった」「将来大工になりたいので今回のようなことをさらに体験したい」など、生徒の職業選択にも大きな影響を与えられていることは大きな成果の一つ。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○建築科の教師に話によると、設計士など技術者志望の生徒が増えているとのこと。こうした体験を通して技能者としての仕事の楽しさを引き続き伝えていく必要がある。

○また、生徒らが実際に職業選択をする高校3年時に建築大工・建設業を選んでもらえるような処遇・職場環境を整えることが急務。

令和4年度　建築大工の担い手確保・育成支援事業（全国建設労働組合総連合）【確保】

確保　広島県　12/7宮島工業高校・建築部　職業体験として木製梯子の作製　加工指導

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域の工務店の大工育成と
地域連携大工育成プログラムの構築・実証

令和5年3月7日

（一社）JBN・全国工務店協会

令和4年度　地域工務店の大工育成と地域連携大工育成プログラムの構築・実証

（（一社）JBN・全国工務店協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**秋田県・山形県・千葉県・埼玉県・山梨県・長野県・富山県・大阪府・兵庫県・愛媛県・徳島県・香川県・福岡県・熊本県・鹿児島県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年2月9日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：122名（男性112名・女性10名）**
受講者属性	種別	**大工：（見習いを含む）122名**
	年齢構成	20歳未満：**21名**　30歳代：**15名** 20-24 歳：**50名**　40歳代：**8名** 25-29 歳：**28名**
座学・実技研修	座学	**30回（15県：30回）**
	実技	**150回（15県：150回）**
	計	**180回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○プレカット加工を前提としたコースと手刻みを前提としてコースを用意し実施。座学に関しては、両コースとも共通課題として社会人基礎、労働安全衛生法、木造軸組住宅概論を受講。県単位の研修会では、木材知識の向上を目的に、プレカット工場へ視察を行った。プレカット加工を前提としたコースでは、建方、外装、内装施工法、設備機器の取付、道具工具類の取扱い、階段施工等についての技能を学び、大工能力評価レベル2の取得を目指した。山梨県においては、リフォーム研修（既存住宅の性能向上計画・施工実習）として、①既存住宅性能向上の計画立案②既存住宅の耐震改修計画③リフォームフロア施工実習④リフォーム階段施工実習⑤連続性に配慮した防水施工の配慮⑥屋根の断熱改修の方法と施工実習等を行った。

○手刻みを前提としたコースでは、差し金の使用方法の基本から規矩術の基本を学び、毎年度その年に学習した内容に基づき現寸図作成及び墨付け・加工までの流れを実施。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○プレカット加工の大工受講者（12県）が事後評価を行った結果は、全体的に成長し、「大工技能」の自己評価を除き、自己・上司評価ともレベル2になった。

○手刻みでの加工技術の修得を目指す研修
秋田・熊本・鹿児島
ほぼ全ての受講者がレベル2相当になった。大工技能だけではなく、安全衛生関連も成長している。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○10回以上の研修会になると月2回以上の開催となり、受講者が仕事の都合等で欠席になることもあり、開催日程調整が必要である。また、富山県は、大雪の影響もあり、12月～1月にかけての研修会に多大な影響もあったので早期の開催が望ましい。

○事後評価の結果、課題点として「大工技能」が低い傾向があり、引き続き育成が必要であり、現代にあった大工技能向上を学ばせることが先決である。

令和4年度　地域工務店の大工育成と地域連携大工育成プログラムの構築・実証

（（一社）JBN・全国工務店協会）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**山形県・愛媛県・福岡県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年2月9日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：31名（男性29名、女性2名）**
受講者属性	種別	**地域工務店経営者等：31名**
	年齢構成	40歳代：**10名** 50歳代：**15名** 60歳～：　**6名**
座学・実技研修	座学	**8回（山形会場：2回、愛媛会場：3回、福岡会場：3回）**
	実技	0回
	計	**8回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

確保に関する取り組みとして、山形2回、愛媛、福岡で各3回WGを実施し、下記の事項について検討を行った。

○公共機関・教育機関との連携、協力体制を構築し教師・教員とのネットワークの構築や積極的なインターンシップの受入れ、出前木造講座の提案等の実施。

○参加工務店の各種保険、就業規則、賃金規程等の環境整備に対しての状況の把握及び改善点の確認。

○工務店グループによる求人票の提出と入職後3年間の賃金の統一化（グループ内協定）等の雇用条件の検討。

○入職3年間の育成プログラムの検討と実施（共通知識・技能の習得補助）と入職者がコミュニケーションをとりやすい環境を提供し、現状把握。

○雇用大工の業務平準化と人材不足への対応に向けた、手空き大工の活用等グループ内の大工職人の業務従事状況の共有と活用に向けた検討。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○本WGにおいて、大工の雇用に向けた環境づくりとしてモデル就業規則等の作成や社員大工の仕事の平準化に向けた検討を行ったが、地域グループとしての取組みには難があり調整が困難となった。
この結果を受けて、実際の雇用に向けた取組みを実施する際には、個社の取組みではなく、グループとしての取組みを推進するためのパンフレットの作成を行った。

○パンフレットは、今後、教育機関や就業者に向けたグループとしての取組み説明で活用する。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○就業規則・賃金規定・年間休日日数等を含めて、業界として就業環境の整備が課題となっている。働き方改革を含めて、個社での改善及び業界としての改善が急務となっている。

○求人を出した地域工務店では、今の新規採用の労働条件（労働時間、休日等）の内容（働き方改革の考え方）は、重々承知しているが、現在の社員との兼ね合いもあるので調整しながらバランスをとっていくのが難しい状況であり、早急に改善する必要がある。

令和4年度　地域工務店の大工育成と地域連携大工育成プログラムの構築・実証

（（一社）JBN・全国工務店協会）【育成】

社会人としての基礎・安全衛生管理

伏図・設計図書

建て方実習

外部施工　胴縁取付け、サイディング張り

階段施工

加工作業（土台・桁・柱）

令和4年度　地域工務店の大工育成と地域連携大工育成プログラムの構築・実証
（（一社）JBN・全国工務店協会）【確保】

確保　若年入職者確保・育成委員会　山形県

確保　若年入職者確保・育成委員会　愛媛県

確保　若年入職者確保・育成委員会　福岡県

大工志塾

令和5年3月7日

（一財）住宅産業研修財団

令和4年度　大工志塾（（一財）住宅産業研修財団）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域		**東京都、愛知県、大阪府、福岡県、長野県、石川県（全6カ所）**
事業期間		令和4年5月20日～令和5年3月3日（**約9ヵ月**）
受講者数	実数	**育成：95名（男性90名、女性5名）** R5.1月末時点 2期生19名、3期生18名、4期生27名、5期生31名
受講者属性	種別	**大工：95名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満 ： **9名**　30歳代 ：**13名** 20-24歳 ：**46名**　40歳代 ： **6名** 25-29歳 ：**20名**　50歳代 ： **1名**
座学・実技研修	座学	下表参照
	実技	**全　体：8回** 2期生：**1回**（修了制作（石場建て足固め工法 板倉造住宅）） 3期生：**5回**（建築大工検定課題演習※）　※東京・愛知・大阪・福岡・長野で各1回実施 4期生：**1回**（八角四阿） 5期生：**1回**（八角四阿）
	計	**294回**

	東京	名古屋	大阪	福岡	長野	金沢	合計回数
2期生	2	2	2	2	－	2	10
3期生	16	18	18	18	18	－	88
4期生	18	20	20	20	20	－	98
5期生	18	18	18	18	18	－	90
合計	54	58	58	58	56	2	286

※1コマ3時間の講義を1回として計上
※会場による講義回数の差は、新型コロナウイルス感染症等の影響による中止によるもの。

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○工務店に所属する若手大工等を対象に、伝統的な木造軸組構法に関する「知識・理論」と「技術・技能」の両面を兼ね備えた大工技能者として育成すべく、3つの育成プログラムに基づき教育指導を行う。

1）**座学**：毎月1回・2コマ程度の講義を各地で実施。コロナ対策のためオンライン形式も一部実施。規矩術は演習を交え、2ｺﾏ6時間の集中講義に変更。
2）**OJT**：所属工務店の指導棟梁が、座学プログラムにない基本的な礼節や道具扱い、「規矩術」講義の宿題アドバイス、また 集合実技研修課題等に関する事前指導等を実施。
3）**集合実技研修**：年1回、群馬県神流町に受講生が集合し、合宿を行い、様々な課題制作や体験学習（製材所・古民家見学等）を行う。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○座学講師の受講生に対する評価
・建築図面の種類と役割と読み取るべき役割を理解できるようになった。
・規矩術講義に演習を交えたことで、受講生の技能習熟度が総じて向上した。

○建築大工技能検定
・令和4年度、1級を6名、2級を12名受検予定（技能向上研修対象の3期生把握分のみ）
※令和3年度実績　1級1名（4名）、2級2名(9名)、3級1名(1名)が合格　ｶｯｺ内は受検者数

○指導棟梁の受講生に対する評価
・大工以外の職方を理解し、自ら考え段取りできるようになった。
・屋根解体や木組の仕方を理解した。
・規矩術講義における受講生の技能習熟度が向上。

○集合実技研修講師の塾生に対する評価
・日頃異なる環境で修業する塾生が一堂に会し切磋琢磨することで、意欲と技能の著しい向上がみられた。
・会社の垣根を越えた同業従事者によるコミュニティ形成に寄与した。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○現場修業（OJT）について、今期、国の指摘事項を踏まえ、大工志塾プログラムの指導到達レベルを客観的かつよりきめ細かな評価指標として示すため、大工に係る職業能力評価シートを参考に見直し・再整理した。
○来期は、当該評価シートの運用（塾生・指導棟梁の事前・事後評価）を開始し、塾生の年次ごとの成長度合の評価に取り組む。あわせて、そのための、関係者への周知徹底、塾全体の体制変更および契約変更手続き等を行う。

令和4年度　大工志塾(（一財）住宅産業研修財団）【育成】

座学風景①

座学風景②

座学風景③（オンライン）

OJT指導風景①

OJT指導風景②

令和4年度　大工志塾((一財)住宅産業研修財団)【育成】

集合実技研修「石場建て足固め工法 板倉造住宅」（2期生修了制作）

令和4年度　大工志塾(（一財）住宅産業研修財団）【育成】

集合実技研修「八角四阿」（4・5期生）

集合実技研修「技能検定演習」（3期生）

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

災害時における応急仮設住宅・応急修理対応の大工育成

令和5年3月7日

（一社）全国木造建設事業協会

令和4年度　災害時における応急仮設住宅・応急修理対応の大工育成

（（一社）全国木造建設事業協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**福島県、群馬県、神奈川県、山梨県、静岡県、富山県、大阪府、高知県、山口県、福岡県、長崎県、沖縄県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年2月9日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：225名（男性225名）**
受講者属性	種別	**大工：225名（見習いを含む）**
	年齢構成	25－29歳：**2名**、30歳代：**34名** 40歳代：**189名**
座学・実技研修	座学	**5回（福島会場：1回、高知会場：1回、山梨会場：1回、長崎会場：1回、沖縄会場：1回）**
	実技	**8回（群馬会場：1回、神奈川会場：1回、静岡会場：1回、富山会場：2回、大阪会場：1回、山口会場：1回、福岡会場：1回）**
	計	**13回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○【木造応急仮設住宅実習訓練研修会（界壁施工編）】
研修内容：施工手順・図面説明・断熱、界壁施工施工実習
○【木造応急仮設住宅実習訓練研修会（木杭編）】
研修内容：全木協マニュアル説明　・施工手順　・図面説明・木杭打込み、レベル合わせ・施工実習

○【応急仮設住宅図面・施工・管理研修会】
研修会内容：図面（応急仮設住宅・談話室・集会所）、仕様説明・全木協マニュアル説明
○【応急修理対応研修会】
研修内容：応急修理とは　・応急修理概要　・修理方法・作業行程の確認・施工方法及び注意事項、施工実習

○【全国研修会】
令和 4年度国土交通省補助事業における成果報告

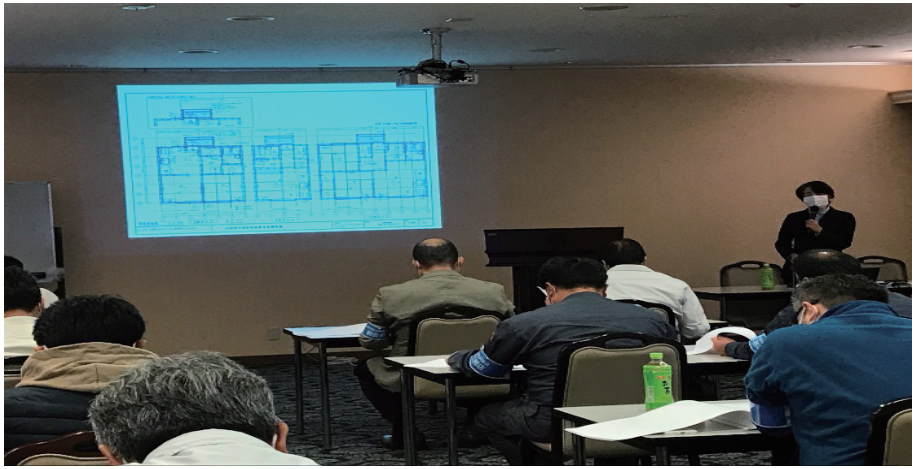
1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○界壁施工研修会を行った結果、普段全く界壁施工を行わない大工が、施工内容・方法を理解することで、防音効果・断熱性能向上等の施工手順・重要性を認識することで、災害発生時に一定水準以上の応急仮設住宅の建設提供ができるようになった。
○応急修理研修会では、屋根の応急対応で、ブルーシートでは耐久性が弱いため、本工事までの間、1年以上経過しても劣化せずに耐久性が高いスーパーブルーシート（ルーフィング）を使用した簡易屋根実習訓を実施し、応急修理に対しての新しい対応方法が一つ加わった。そして、施工のポイントを含めて解説を行い、理解を深めることができた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○台風の進路が以前と違い、どこに上陸するかわからず、屋根瓦が飛ばれたり、床上浸水等の甚大な被害が発生し、災害地では、悪徳業者がブルーシートを張るのに高額料金を請求する事例が後を絶たず、全都道府県での早急な訓練実施が望まれる。
○応急仮設住宅実習訓練研修会（界壁施工編＆木杭編）では、大工受講者により、断熱材の入れ方に差があり、綺麗に入れることができない受講者もいるので、断熱性能の重要性を再度認識してもらうことが必要である。

令和4年度　災害時における応急仮設住宅・応急修理対応の大工育成
（（一社）全国木造建設事業協会）【育成】



応急仮設住宅施工・管理研修会山梨県（談話室・集会所）

応急修理研修会　神奈川県

木造応急仮設住宅実習訓練研修会（界壁施工編）　群馬県

木造応急仮設住宅実習訓練研修会（木杭編）　富山県

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域の建材店を中心とした
地域の会大工担い手育成事業

令和5年3月7日

（一社）全国住宅産業地域活性化協議会

令和4年度　地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業
（（一社）全国住宅産業地域活性化協議会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**鹿児島・長崎・山口・広島（広島）・広島（福山）・岡山・鳥取・福井・山梨・愛知（岡崎）・岩手（北上）**	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年1月31日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：68名**（男性58名、女性10名）
受講者属性	種別	**大工：31名（見習いを含む）** **設計・営業等：37名**
	年齢構成	20歳未満：**11名**　30歳代：**8名** 20-24歳：**36名**　40歳代：**3名** 25-29歳：**10名**
座学・実技研修	座学	**42回（11会場延べ回数）**
	実技	**121回（11会場延べ回数）**
	計	**163回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

【各地域における大工育成事業の実施】

○建材建材流通店を核に、地域の工務店との人材育成を可能とする環境を構築し3か年事業として育成事業を実施。各地域、受講生レベルに応じたカリキュラムを基に座学・実技研修を実施。

11地域68名が受講。（新規受講49名・継続受講19名）

〈座学〉

・社会人としての心得、マナー、安全衛生知識、道具の知識、木造軸組み概論、プレカット工場見学などを実施。

〈実技〉

・実習棟による建て方実習

土台敷き、建て方、外部施工、内部施工～解体まで一連の研修を実施

○受講前、受講後の能力評価シートによる成長度の測定とフィードバックを実施。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○受講生80%のCCUSレベル1からレベル2への向上を目標にした育成事業3年計画の最終年度。新規受講生49名においてはレベル2到達者はゼロとの結果となった。然しながら、19名の継続受講者においては約60%がレベル2へ到達することができた。

又、項目別では全地域で「基本的な立ち振る舞い」、「木材・建材の知識」においてレベル2へ到達した。

○今年度新たに担い手育成委員として参加したメンバーへの取組内容の共有により、その中から次年度以降、育成事業へ取り組む可能性が出てきたことも成果として上げられる。（検討中の地域：沖縄・静岡・神奈川）

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○各地域5名程度の受講生（新規入職者）の確保。

○一方で、CCUSレベル2への到達へ向けては新規受講者が単年で到達するには無理があり、2年～3年の継続受講が必要。

○大工の魅力発信による入職者確保と業界からの離職の歯止め。

○育成事業の標準化（再現性）へ向けたツール、資料などの更なる充実。

令和4年度　地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業
（（一社）全国住宅産業地域活性化協議会）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**山梨県・山口県**	
事業期間	令和4年6月1日～令和5年1月31日（**約8ヵ月**）	
委員者数	実数	地域ネットワーク委員会：8名（男性8名）
委員	種別	**・山梨：7名** **・山口：1名**
座学・実技研修	地域ネットワーク委員会	**4回（山梨会場：2回、山口会場：2回）**
	計	**4回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

【地域ネットワーク委員会】

〇山梨・山口にて各2回、委員会を実施。

（山梨県）
・工務店大工の仕事の平準化、雇用・育成についてのネットワークの在り方・役立ち、具体的なアクションについての方策を議論。

（山口県）
・新規入職者確保へ向けたリクルート活動のツール作成、環境整備（雇用条件、就業規則など）についての具体的内容を検討。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

〇山梨県
・新規入職者の確保へ向けた、大工の魅力発信イベント（展示会でのブース設置）の企画が整った。他団体と共同で木工教室等のイベントを実施し大工の魅力・存在を発信していく。

〇山口県
・リクルート活動へ向けたツールを作成。
成果物として大工の魅力を伝える動画・会社案内パンフレットなど完成。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

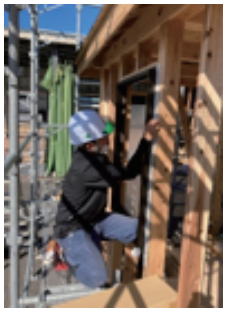
〇山梨・山口における活動の効果検証と、他地区への展開。

〇「確保取組」の住活協内での更なる情報共有と周知。
活動の意義、認知アップによる参加地域の拡大。

令和4年度　地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業
（（一社）全国住宅産業地域活性化協議会）【育成・確保】

【研修風景】

＜鹿児島＞



＜長崎＞

＜山口＞

＜広島＞

＜福山＞

＜岡山＞

令和4年度　地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業
（（一社）全国住宅産業地域活性化協議会）【育成・確保】

【研修風景】

＜鳥取＞

＜福井＞

＜山梨＞

＜岡崎＞

＜北上＞

令和4年度　地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業
（（一社）全国住宅産業地域活性化協議会）【育成・確保】

【委員会】

＜育成委員会＞

＜集合研修＞

＜地域ネットワーク委員会＞

・山梨

・山口

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

伝統技術を活かした大工技能者の育成プログラム

令和5年3月7日

一般社団法人 全国古民家再生協会

令和4年度　伝統技術を活かした大工技能者の育成プログラム(（一社）全国古民家再生協会)【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**福島県、富山県、群馬県、岐阜県、京都府、福岡県、熊本県**	
事業期間	令和4年6月30日～令和5年1月30日(**約7ヵ月**)	
受講者数	実数	**育成:45名(男性45名、女性0名)**
受講者属性	種別	**大工:**(見習いを含む)**45名**
	年齢構成	20歳未満:**3名**　30 歳代:**15名** 20-24 歳:**8名**　40 歳代:**14名** 25-29 歳:**4名**　50 歳代:　**1名**
座学・実技研修	座学	**21回(福島・富山・岐阜・福岡会場:4回、群馬・京都会場:2回、熊本会場:1回)**
	実技	**71回(福島会場:11回,他7会場10回)**
	計	**92回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

伝統構法に関する知識・技術を有した大工技能者が育成され、安心・安全な住宅を後世へ残すこと及びその知識・技術を現在の建築においても応用できるようになることを目的とし、工務店に所属する大工等(全国7会場・45名)を対象に、以下の事業を実施した。

1)座学:合計8時間の講義を各地で実施。
伝統技術のみならず、日本の伝統建築の歴史・考え方及びリフォーム(再築)時に重要な建築面の考え方を習得。

2)実技:合計80時間を所定時間とし各自で実施。
製作にあたり模型図面をもとに墨付け・手刻みを実施し、手仕事の技術力向上を目指した。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

普段、座学等の講習を学ぶ機会が少ない大工技能者に対して座学講習を実施することにより、知識向上に繋げることができた。また、座学に関しての習得度合いは平均88.5点となり達成目標(評価B以上)を超え一定の効果はあったと認識する。
また実技は、普段の大工仕事時に手工具などを使用するケースが著しく減少するなか、当実技講習を実施したことで、特に若年層の大工技能者にとっては学びの多い講習となった。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

若手大工技能者の減少による技術の継承が課題とともに、技術を必要とする現場の減少が目立つ。当協会として古民家の再生、古材のリユース促進により大工技能者による手仕事の拡大を図る必要がある。

令和4年度　伝統技術を活かした大工技能者の育成プログラム(（一社）全国古民家再生協会)【育成】

座学風景

実技風景

令和4年度　伝統技術を活かした大工技能者の育成プログラム(（一社）全国古民家再生協会)【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	Youtube	
事業期間	令和4年12月8日～令和5年2月9日（**約2ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：-名（男性-名、女性-名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：-名**
	年齢構成	20歳代：-名　50歳代：-名 30歳代：-名　60歳～：-名 40歳代：-名
座学・実技研修	座学	動画1：**323再生**
	実技	動画2：**459再生** 動画3：**1731再生**
	計	**2，513回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

動画①：古民家の「伝統構法」の耐震性をどう考えるか
耐震に対する考え方の違い、伝統構法における技術ポイント解説、伝統構法の特徴を活かした改修方法を動画に纏めた。
協力：鶴谷　充男氏（全国伝統耐震診断連合会 会長/一級建築士/大工出身）
https://youtu.be/-KQjIR3Xjq0

動画②：古材の加工と再活用
古材利用の注意点、古材の加工方法、変形古材の加工方法を動画に纏めた。
協力：有限会社大森大工 創業者 大森 敏昭氏（大工棟梁）
https://youtu.be/YGkh6zsWaok

動画③：大工の職人技　～光付けの実演～
光つけの加工方法、光つけからみる職人技術を動画に纏めた。
協力：有限会社大森大工 代表取締役 山下 学氏（大工棟梁/一級建築士/宅建士）
https://youtu.be/K2zdfMBD1qw

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

動画再生回数の向上に向け、全国古民家再生協会の広報誌ならびに会員への周知、SNS等を活用した広報をおこなったが、達成目標には至らなかった。しかしながら、一般消費者からのアクセスならびに同事業者からのアクセスを通じ大工の確保に繋がる取り組みであったと認識している。
また実際の大工技能者による加工動画の再生回数が多いことが顕著に現れた。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

アクセス数が延びない座学動画の周知拡大が必要。また大工技能者のより高い技術力を多く発信をおこない大工技能者の確保に努める必要がある。

令和4年度　伝統技術を活かした大工技能者の育成プログラム(（一社）全国古民家再生協会)【確保】

座学風景

伝統構法の改修、設計について

耐震に対する考え方の違い、伝統構法における技術ポイント解説、伝統構法の特徴を活かした改修方法を動画に纏めた。

動画②

古材の加工と再活用

古材利用の注意点、古材の加工方法、変形古材の加工方法を動画に纏めた。

動画③

大工の職人技　～光付けの実演～

光つけの加工方法、光つけからみる職人技術を動画に纏めた。

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業

令和5年3月7日

（一社）日本CLT協会

令和4年度　CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業(（一社）日本CLT協会)【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**愛媛県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年2月9日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：19名（男性19名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工：18名（見習いを含む）** **その他：1名**
	年齢構成	20歳未満：**0名**　30歳代：**6名** 20-24歳：**1名**　40歳代以上：**12名** 25-29歳：**0名**
座学・実技研修	座学	**1回（愛媛会場：1回）**
	実技	**1回（愛媛会場：1回）**
	計	**2回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○実務講習の実施　【10/22開催】
- ・座学講習+実技講習の2部構成の講習。
- ・会員企業の工場内にて実施。

（1）座学講習（2時間）
- ・CLTパネル工法の基礎知識及び施工に関するノウハウ等を座学形式にて行った。

（2）実技講習（3時間）
- ・CLTパネル工法の平屋の建屋（3m×3m×高さ2．8m）を実際に施工する実習。
- ・1チーム10人程度で、2チーム、2棟の施工を実施。
- ・天井クレーンを使用した、より実務に近い形で講習を実施できた。
- ・建屋で使用していない種類のχマーク金物の隠蔽型の金物（TB-DP）は、モックアップを制作し、金物納まりを確認できる工夫を行い、CLTパネル工法の金物の理解度を深めた。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○座学講習
確認考査を実施し、受講者の理解度のチェックを行った。確認考査の正解率が70%以上を超え、CLTパネル工法の基礎知識や施工知識は習得されたと判断できた。

○実技講習
オリジナルの「実技チェックリスト」を活用し、施工の重要なポイントの理解度のチェックを行った。「理解できた」とする割合が88～94%と、目標の70%を超え、実技講習の内容を習得されたと判断できた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○次のステップへ
受講者より、「本講習を受講することで、CLTパネル工法の基礎的な施工技術は習得できるが、より高度な実務経験を積みたい」など、次のステップへの意見・質問が多く挙がった。
→次のステップとして、受講者がCLTパネル工法の施工ができたり、より実践的な内容を学べる機会の検討が必要。
（施工現場の見学や実際の建て方のサポートなどの実践経験）

令和4年度　CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業(（一社）日本CLT協会)【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**WEB講習（オンデマンド配信）** ※1/20時点	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年2月9日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：148名（男性128名、女性20名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：134名** **その他（学生等）：14名**
	年齢構成	20歳代：**18名**　50歳代：**43名** 30歳代：**26名**　60歳～：**18名** 40歳代：**43名**
座学・実技研修	座学	**1回（オンデマンド配信）**
	実技	**0回**
	計	**1回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

〇WEB講習の実施

【配信期間2022年9月12日～2023年2月9日】

・CLTパネル工法の施工、設計などの基礎知識に関する講習を、設計・概要と施工の2部構成で実施。

・「CLT」に興味を持って頂くために、他工法とCLT工法の違いなども講習に加え、幅広い内容とした。

（1）CLTパネル工法の概要・設計 基礎知識編（約30分）

「CLT」や「CLTパネル工法」に関する概要や設計に関する基本的な知識について解説

（2）CLTパネル工法の施工 基礎知識編（約60分）

「CLTパネル工法」の施工に関する施工手順など、実際の施工例を取り上げながら解説。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

〇WEB講習　アンケートの実施（全体の内、40名回答）

5段階程度のCLTパネル工法に関する理解度・認識度に関するアンケートを実施した。「概要・設計」「施工」編ともに、「理解できた」とする割合が95～98%と、目標の70%を超え、基礎的な知識の習得したと判断出来た。

また講習全体の満足度に関しても88%が「満足」とすると回答を得た。

受講前と受講後の理解度は、「深まった」とする割合が、95%を占め、理解を得られる講習と考えられる。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

〇応用編について

今回の基礎知識編は、CLTの低層建築物に焦点を当てた講演でしたが、アンケート結果より、CLTパネル工法の大規模建築の施工など、応用編のある内容を追加して欲しいと要望が挙げられていた。

→CLTパネル工法の単純なプランや複雑なプランなど難易度を分けた施工実例に関して、現場での難しいポイントや工夫した点などを伝えるような応用編の講習の検討が必要。

令和4年度　CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業(（一社）日本CLT協会)【育成】

●実技講習　建て方フロー

CLT 躯体工事の手順

基礎工事 → 材料搬入 → 足場 → 土台 → 1 階壁 CLT → Step 1 2 階床 CLT → Step 2 2 階壁 CLT → Step 3 天井 CLT → 小屋組 → Step 4 上棟

大工技術者等の担い手確保・育成事業

実技講習建て方のポイント

引用書籍：CLT パネル工法低層建築物施工マニュアル

今回の実技講習を実施するに当たって

1. 平屋建て CLT 棟の建て方

■床・壁・天井の各 CLT パネルの施工方法を実習する。
■Χマーク表示金物等の取付方法を実習する。
・基礎と壁パネル　：引きボルト
・床と壁　：せん断金物 LST
・壁と腰壁,垂れ壁　：せん断金物 SP
・壁と天井　：引張金物 TC-90+座金 W16
　：せん断金物 LST
・天井相互　：帯金物 STF

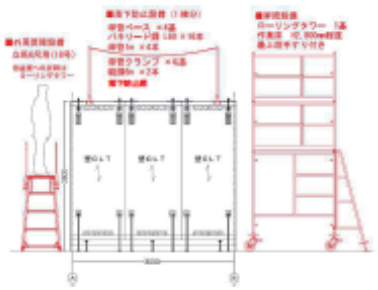
2. 天井クレーン　を使用

工場内の施工であるが、現場に近い想定を考え、天井クレーンを使用した施工とする。

注意 通常は重機（移動式）クレーンを使用する。

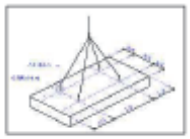
3. 今回使用する安全設備

■昇降設備（ローリングタワー）
■落下防止設備（単管+親綱、および落下防止網等）
■外周昇降設備（立馬６尺用）
注意 天井への昇降はローリングタワーを使用する。



1 CLT 床パネル敷き込み

(1) 玉掛け作業
・アイボルトを取付ける。（外側パネルのみ）

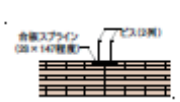


(2) CLT 床パネルの敷き込み
①外側パネル → ②中間パネル → ③外側パネル

天井クレーン使用

※外側パネルの施工イメージ図

(3) CLT 床パネル相互の接合
・合板スプラインをビス留めする。(@200－2 列)
※ビス留めは通常@150-2 列の場合が多い(計算等による)



(4) 土台（外周・中間部）と CLT 床パネルの接合
・長ビスで留め付ける。全 22 箇所
※通常土台の上部に床パネルを設置し接合する施工現場はほとんどない

2 CLT 壁パネル建て入れ

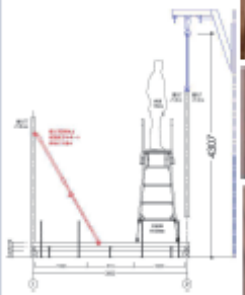
(1) 金物の取付け
・壁頭部に引張金物 TC-90、せん断金物 LST、垂れ壁パネル、垂れ壁パネルにせん断金物 LST, SP を適宜、取付ける。

CLT 壁パネル（2F）の重さ

	t＝90	t＝120	t＝150
1m×3m	135 kg	180 kg	225 kg
2m×3m	270 kg	360 kg	450 kg

(2) 玉掛け作業
・吊り具を取付ける。

(3) CLT 壁パネルの建て入れ
・仮設建て方サポートを用いる。
・引きボルトのナットを仮止めする。
(4) CLT 腰壁パネルの建て入れ
・せん断金物 SP で仮止めする。
(5) CLT 垂れ壁パネルの建て入れ
・せん断金物 SP で仮止めする。
(6) CLT 壁パネルの倒れを確認する。
建て方精度 壁の倒れ：2~3 ㎜程度 (e ≦H／1000mm)
(7) その他の金物の取付け
・壁脚部にせん断金物 LST、その他の金物を適宜、取付ける。



3 CLT 天井パネル敷き込み

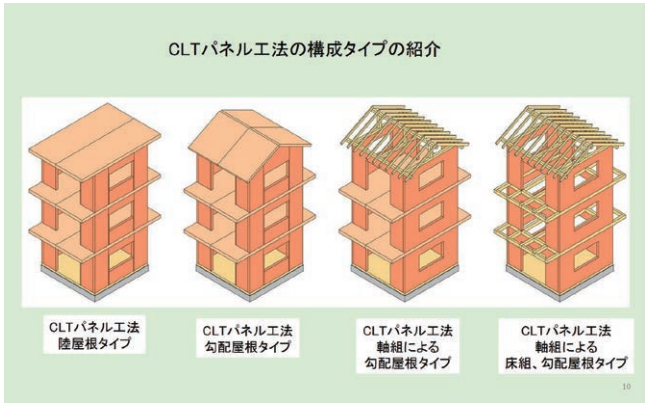
(1) 玉掛け作業
・アイボルトを取付ける。
(2) CLT 天井パネルの敷き込み
・手順は床パネルと同様
・落下防止設備を設置
（単管+親綱、および落下防止網等）
(3) CLT 天井パネル相互の接合
・合板スプラインをビス留めする。
・帯金物 STF を留め付ける。
(4) CLT 天井パネルと CLT 壁パネルの接合
・角座金 W16 をナットで締め付ける。
(5) 残っている全ての金物を取付ける。

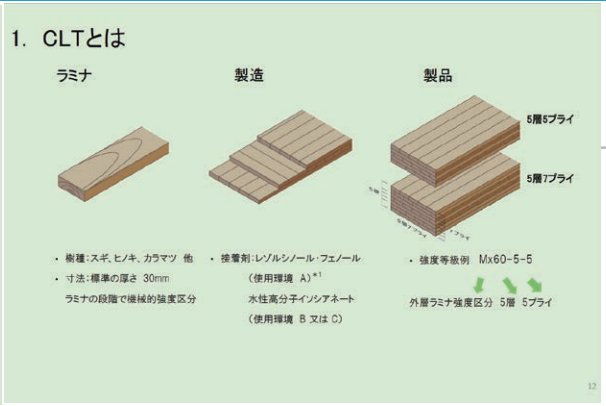
4 上棟

(1) 引きボルトのナットを本締めし、全ての金物のタッピンねじが正確に打ち込まれているかを確認する。
重要 CLT パネル工法は金物接合であるため、多くの金物を使用する。その金物が全て正確に留め付けられているかが重要となる。

主催：一般社団法人日本 CLT 協会

令和4年度　CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業(（一社）日本CLT協会)【確保】





令和4年度 CLT建築物の大工技能者等の担い手育成講習

<配信期間>令和4年9月12日（月）～令和5年2月9日（木）

※テキストは、映像下より無料でダウンロードできます。
お手元にご準備頂きながら、映像を拝見頂けると、より理解しやすい内容となっておりますので、是非、併せてご活用頂けますと幸いでございます。

CLTパネル工法の概要・設計に関する基礎知識 編

講習会用テキスト（無料）
CLTパネル工法の概要・設計に関する基礎知識 編　説明資料（約2.8MB）» PDF

アンケートにご協力下さい

動画をご覧になった後、アンケートに
ご回答いただきますようお願いいたします。

つくばCLT実験棟（工事概要）

建築面積	130㎡
延床面積	166㎡
1階	88㎡
2階	78㎡
基本モジュール	m
ＣＬＴパネル数	壁：108枚　床：28枚　計136枚
使用材積：94.14㎥	杉

最大サイズ3x12m 揚重例

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

北海道の工務店ネットワークによる大工育成

令和5年3月7日

（一社）北海道ビルダーズ協会

令和4年度　北海道の工務店ネットワークによる大工育成（（一社）北海道ビルダーズ協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**北海道**	
事業期間	令和4年6月6日～令和5年2月9日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：143名（男性136名、女性7名）**
受講者属性	種別	**大工：143名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**10名**　30歳代：**63名** 20-24歳：**30名**　40歳代：**15名** 25-29歳：**25名**
座学・実技研修	座学	**10回（札幌会場：5回その他会場：5回）**
	実技	**6回（札幌会場：6回）**
	計	**16回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○新人大工講話会　　1回（座学研修）
伝統的な大工手道具「鉋」の仕込みと取扱い方などを題材に、大工としての心構えと伝統技能の継承の必要性を新人大工に伝えた。

○大工育成委員会　　5回（委員10名）
全道各地の工務店経営者と技専・高校の教職員を委員とし、各研修会の計画・受講者の募集・大工育成マニュアルの内容検討を行った。

○新人大工座学研修会　　4回（座学研修）
1年目・2年目となる新人大工に北海道特有の断熱・気密技術と、在来工法・枠組壁建築工法などの多様にわたる建築構造の仕組みなど、新人大工としての基礎知識に関する研修を行った。

○技能向上研修会　　6回（実技研修）
初級・中級・上級レベルの実技課題を中心に規矩術の基礎知識と現寸図の作成及び墨付け・加工・組立までの研修を行った。

○基本技術研修会　　6回（座学研修）
建築大工として必要な安全教育（丸のこ・足場・石綿・木造組立・安全帯）などの研修を行った。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○新人大工座学研修会
大工技能の基礎知識に関する確認テストで、正答率70%以上の達成目標を確認した。

○技能向上研修会
初級・中級・上級レベルの実技課題を作製し、独自の採点方法により技能士合格レベルの判定を行い、70%以上の達成目標を確認した。

○基本技術研修会
一定の理解度は得られたが、CCUSへの登録目標を参加者の50%に対し、13%程度と達成には及ばなかった。翌年以降の登録検討者が10%程あり、ゆっくりだが今後の成果が期待できる。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○北海道は広域に工務店が点在し、育成研修を札幌で開催しても遠隔地からの参加は厳しい。また、札幌以外の地域では工務店の数が少ないため、研修会を開催しても参加人数が少なくなり、育成に対する効率が悪くなる。参加者の交通費に対する支援など、総体的な育成効率を向上させることが必要である。

○育成研修に参加する新人の大工さんたちは、自身の意志もさることながら、雇用されている会社の意向で研修に参加している。育成活動への受講者及び大工への入職者を増加させるためには、会社側の意欲と理解が必要不可欠である。

★新人大工講話会（17名参加）

・ 7月　2日　三笠市（武部建設作業場にて）

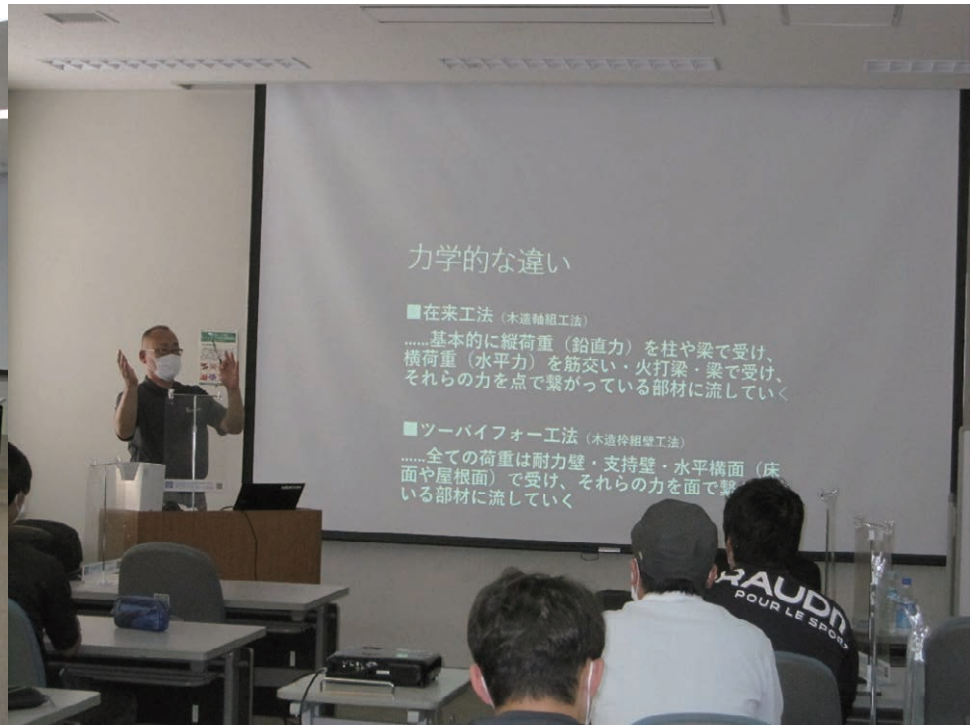
令和4年度　北海道の工務店ネットワークによる大工育成（（一社）北海道ビルダーズ協会）【育成】

★ポリテクセンター北海道による新人大工育成プログラムの研修

- 平成30年4月より開始し、5年を経過する
- 平成30年：受講者 10名（内8名在職中）
- 令和元年：受講者 10名（内9名在職中）
- 令和2年 ：受講者 12名（内8名在職中）
- 令和3年 ：受講者　5名（内5名在職中）
- 令和4年 ：受講者　7名（内7名在職中）
- ５年間で44名の新人大工入職者に対し37名在職中（在職率84％）

★新人大工座学研修会（7+5名参加）

- 7月　1日　　大工に求められる能力
- 7月　9日　　木造住宅の構造と力の流れ
- 9月　3日　　技能士とは
- 1月14日　　窓の性能について



★技能向上研修会（14名参加）

- 11月19･20日　　12月24･25日　　1月4･5日

令和4年度　北海道の工務店ネットワークによる大工育成（（一社）北海道ビルダーズ協会）【育成】

★基本技術研修会

- 7月26日　　網走市
- 7月27日　　猿払村
- 9月12日13日　函館市
- 10月27日　　札幌市
- 10月28日　　旭川市

令和4年度　北海道の工務店ネットワークによる大工育成（（一社）北海道ビルダーズ協会）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**北海道**	
事業期間	令和4年6月6日～令和5年2月9日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：51名（男性43名、女性8名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：20名** **その他（経営者）：31名**
	年齢構成	20歳代：**21名**　50歳代：**9名** 30歳代：**6名**　60歳～：**6名** 40歳代：**9名**
座学・実技研修	座学	**3回（札幌会場：3回）**
	実技	
	計	**3回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

○職業　技能研修会　　1回（座学研修）
技術専門学院にて工務店の実際の仕事内容や現場での先輩大工さんたちの様子と、実際に必要とされる大工の技能などについて研修会を行った。

○キャリアアップ研修会　　1回（座学研修）
工務店経営者及び管理者を対象に、芝浦工業大学の蟹澤先生を迎え、建設キャリアアップシステムの経緯や目的なども含めた取組について、CCUS活用のための研修会を行った。

○指導者研修会　　1回（座学研修）
建築大工の棟梁・職長及び管理者と若手大工を含め、TWI（監督者訓練）のテキストを活用し、「仕事の教え方」による「教え方の4段階」や「作業分解シート」の活用法などを中心に研修会を行った。

○大工育成マニュアルの作成
大工育成委員会にて構成内容を検討し「大工さん育成ガイドブック」ととして地域工務店経営者のためのガイドブックの原稿を作成した。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○職業・技能研修会
個別の質疑対応を行い、大工の雇用条件や就業規則・休日の取扱いなど、大工の仕事と暮らしを伝え、インターシップ及び就職希望者が増えた。

○キャリアアップ研修会
CCUSへの理解がより具体的になり、登録に向けての具体的な問い合わせが増えた。

○指導者研修会
実演をまじえた研修により、正しい教え方のポイントや作業分解の方法を理解し、意識向上率70%以上の成果を確認した。

○大工育成マニュアルの作成
新人大工を迎え育てるためのガイドブックを地域工務店経営者に活用してもらうことで、今後の効果を期待する。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○木造住宅を主体とする工務店では、キャリアアップシステムに取組む経営者は少なく、より効果的な周知方法の検討と説明が必要である。

○「地域工務店経営者のための大工さん育成ガイドブック」の原稿を作成したが、工務店の経営者に活用してもらうためには印刷物として配布し、説明会を行うなど、今後の周知活動が必要になる。

○ガイドブックの続編を検討し、新人大工さん自身に向け必要な基礎知識を盛り込んだガイドブックを作成する必要がある。

令和4年度　北海道の工務店ネットワークによる大工育成（（一社）北海道ビルダーズ協会）【確保】

★　6月28日　職業・技能研修会（札幌高等技術専門学院）20名参加

令和4年度　北海道の工務店ネットワークによる大工育成（（一社）北海道ビルダーズ協会）【確保】

★キャリアアップ研修会（24名参加）

- 11月25日　札幌研修会

★指導者研修会（16名参加）

- 1月28日　札幌研修会

地域工務店経営者のための
大工さん育成ガイドブック

Ⅰ　はじめに

戦後の経済成長から住宅ブーム～プレハブ・ハウスメーカーの大量生産と大工の需要が増え、1980年には建築大工の労働者人口は93万７千人とも言われていました。

しかし、プレカット技術の確立～バブル経済の崩壊を経て、建設業及び建築大工の仕事は著しく減少し、工務店に雇用されていた大工の一人親方への社外追放や、他職種への転職など、それまで新人大工を育てていた工務店の多くが育成を敬遠し、2015年には37万２千人にまで減少してしまいました。

著しい職人不足の中で、新たに育成をはじめようとする工務店も増えてきていますが、バブルの崩壊から30年以上の年月が経過し、工務店も世代交代が進み、現在の工務店経営者の多くは、自身の大工経験もなくまた大工育成の経験もないため、苦境に立たされているようです。

このガイドブックは、そんな工務店経営者のみなさんの手に取っていただき、雇用環境の整備や新人大工の確保及び育成を行うための指針となるよう、地域工務店のための大工育成ガイドブックとして活用していただければと思います。

多くのみなさまと共に、1人でも多くの大工さんを育て、社会に貢献できることを切に願っております。

一棟司塾

令和5年3月7日

（一社）東北建設技能協会

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**宮城県**	
事業期間	令和4年6月1日～令和5年1月31日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：20名（男性18名、女性2名）**
受講者属性	種別	**大工：20名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**0名**　30歳代：**4名** 20-24歳：**4名**　40歳代：**3名** 25-29歳：**8名**　50歳代：**1名**
座学・実技研修	座学	**2回（富谷市会場：2回）**
	実技	**26回（富谷市会場：24回、石巻市会場：1回、栗原市会場1回）**
	計	**28回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

①座学
大学建築学部教授・工学博士を講師に招き、木材に関する概論から、最近の研究成果などの講義を実施。

②実技
図面の見方から墨付け、刻み、足場組み立て、基礎工事平屋の建て方実践、棟上げまで、家が一軒建つまでの一連プロセスを取得するための実技講習を実施。加えて、電動工具の扱い、建設用重機の運転操作、測量の基礎、ドローン操作など、多能工として必要な周辺知識や技能も習得する。

③見学会　（[確保]と合同で行う）
石巻市で、木材の生産加工業者の協力を得て、山林での木材伐採、運搬、燻煙方法など、天然木が建築材になるまでの工程を見学。栗駒市では、空き店舗群のリノベーションによる町おこしの実例を見学した。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

①座学：　木材に関する基礎的知識から、最新の研究成果など、新たな知見を得ることができた。
②実技：　木造住宅建築の全工程を体験し、職人としての伝統的な手作業の技能（墨付け、規矩術、継ぎ手、他）と、電動工具や重機類の操作など多能工としての技能を伸ばすことができた。 CCUS登録者が4名になった。
③見学会：　山林での伐採の様子や、リノベーションによる町おこしの様子を実地で見知ることができた。※被災地復興、建替え・リフォーム等の需要に応え、現場に貢献できる人材を育成できた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

①出席率の維持
受講生が就業者なため本業を優先し、やむなく欠席することがある。
→　受講生の就業先に、個人参加ではなく企業の研修の一環という位置付けで、参加し易くできないか働きかける。
②リスク管理
外的リスクにより開講時期や講習内容の変更を余儀なくされた。
→　コロナ対策強化、冬季の除雪用具の用意、水道管破裂防止対策を実施。より安価で安定した木材の購入先候補を選定する。

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**宮城県**	
事業期間	令和4年8月1日～令和4年11月30日（**約4ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：10名（男性10名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：0名** **その他（学生）：10名**
	年齢構成	20歳未満：**10名**
座学・実技研修	座学	**0回**
	実技	**10回（仙台市会場：3回、岩沼市会場：7回）**
	計	**10回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

建築に関する基礎知識は有るが、実際の現場経験が無い学生を対象に、即戦力となるような実技講習を実施。

①東北工業大学建築学部
の学生を対象に、リノベーションに関する基礎的かつ実践的な技能（主に、壁張り、床板張り、加工仕上）を習得する。

②東北電子専門学校建築科
の学生を対象に、大工技能検定3級の実技部分に相当する技能（桁・梁・束・棟木及び垂木・隅木の加工組立）を習得する。

③見学会　（[育成]と合同で行う）
石巻市で、木材の生産加工業者の協力を得て、山林での木材伐採、運搬、燻煙方法など、天然木が建築材になるまでの工程を見学。栗駒市では、空き店舗群のリノベーションによる町おこしの実例を見学した。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○リノベーションに関する基礎的かつ実践的な技能を習得し、効率的に作業するためのプランを考えることができるようになった。

○大工技能検定3級の実技部分に相当する技能を、概ね習得し、桁・梁・束・棟木など木造家屋の構造材を加工・組み立てることが出来るようになった。

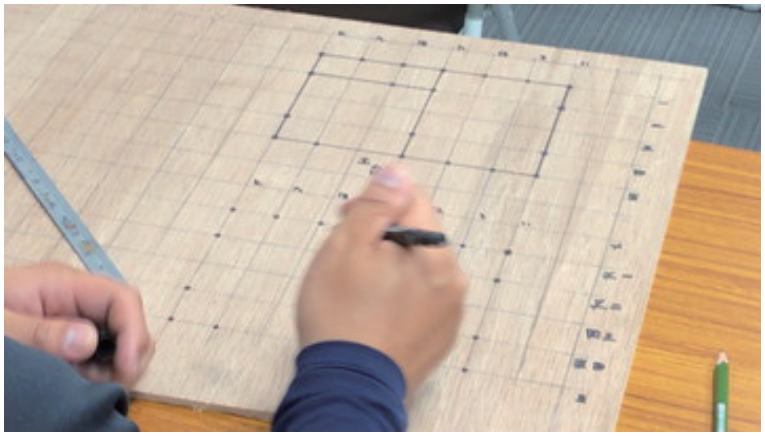
2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○講習内容の精選
少ない講習回数で高い学習効果を得るため、受講者の能力・適性に応じた講習内容の精選が必要
→　受講申込受付の時点でｱﾝｹｰﾄ等を実施、事前にｽｷﾙﾚﾍﾞﾙを把握し、講習内容を見直す。

○コロナ対策
前年度、受講性の大半が出席できなくなる事態があった。
→　複数人で一つの課題ではなく、個々人でも取り組める課題も用意する。

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

入塾式、安全衛生教育



図面（手板）書き

手道具による刻み作業

電動工具の取り扱い

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

建て方：土台

土台組み

足場組み

柱、桟、建て方

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

屋根掛け

上棟式

筋交い

窓取付け

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

階段設置

床材、壁材　取付け

内装・左官

木造平屋建て　一棟全景

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

座学講習：　木材の概論、耐火性・耐久性、等

現場見学：　石巻市山林、伐採現場

現場見学：　栗原市、燻煙工場

現場見学：　リノベーションによる町おこし

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【育成】

重機講習：　バックホウの運転操作

重機講習：　小型移動式クレーン、玉掛け

測量

ドローン操縦

令和4年度　一棟司塾（一般社団法人 東北建設技能協会）　【確保】

大工技能の基礎

大工技能の基礎

以　上

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善

令和5年3月7日

日本の伝統的大工塾

令和4年度　地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善（日本の伝統的大工塾）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**山形県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和6年2月6日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：5名（男性5名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工：5名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**0名**　30歳代　：**1名** 20-24歳：**1名**　40歳代～：**3名** 25-29歳：**0名**
座学・実技研修	座学	**3回（鶴岡会場）**
	実技	**12回（鶴岡会場）**
	計	**15回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

大工従事者の手確保と技術向上のため、鶴岡市内に残る伝統構法を講師から学ぶ実技主体の大工塾を開催。

○実技講座

今年度は昨年度からの続きとして3×5間の平屋住宅を想定した課題の実技講座を通年通して開催。
（基本的に隔週日曜が講座開催日）

○出前講座

安藤邦廣先生を講師にして板倉構法の技法や、災害時の応急仮設住宅への板倉構法の活用事例について学ぶ出前講座を開催。午前中は大工や工務店関係者向けの技術的内容に特化し、午後は一般聴講者も参加可能な活用事例の講座として伝統構法の可能性普及に努めることができた。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○年度初めに立てた目標についてはいずれも達成できた。
■伏図・木拾いの評価：現状52%を目標65%以上
→ **実績69%**
■墨付け・刻みの評価：現状42%を目標50%以上
→ **実績61%**
○実技で「やってみた」ことが自信と本業への応用につながり、講師が当初から掲げていた**「まず経験する事」の重要性**を塾生たちが実感(体感)する1年になった。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○社会経済の回復による本業の繁忙で講座開催日の確保自体が難しくなった一年だった。
（予定開催補助対象期間24回→実績15回）
特にコロナが落ちついた夏季は「講座を開催したいけれど本業が忙しくて集まれない」という日が複数回あった。
来年度以降も同じ状態が続く可能性があるため、定期の講座ではなく、フレキシブルなスケジュールでの対応とする方向で検討している。

令和4年度　地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善（日本の伝統的大工塾）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**山形県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和6年2月6日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：15名（男性12名、女性3名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：12名** **その他（設計・行政）：3名**
	年齢構成	20歳代：**0名**　50歳代：**0名** 30歳代：**2名**　60歳～：**12名** 40歳代：**1名**
座学・実技研修	座学	**2回（山形会場）**
	実技	**0回**
	計	**2回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

「若手入職者の確保と地元工務店の社会保険強化活動」の課題の一つである社会保険加入のための勉強会を開催
→給与＜週休二日制・社会保険の有無を重要視する若者の意識を理解してもらうこともサブの目的

○中小工務店向けに4時間（2日×2時間）の研修会を開催
1回目は「社会保険の基礎」として、定めている法令やその概要について知る内容
増えつつある70歳overの職人の社会保険(年金)切替などにも触れた。

2回目は「社会保険の実際」として、月収から社会保険を控除した場合、手取りがどうなるか、事業主の負担額はどのくらいかを例題としてあげ自ら計算してもらうという内容を行った。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○「理屈は分かっているものの具体的にどうなるか」という曖昧な理解と疑問を、例題を基に数字で可視化し、理解を深めてもらうという結果は目標どおり得られた。
○雇用保険の負担率がほかの業種に比べ大きいことなどから、全加入の難しさも改めて噛み締めるものになり、社会保険の重要さを理解しつつも、適切な賃金体制を確立する取り組みも並行して行う重要性を共有する機会となった。

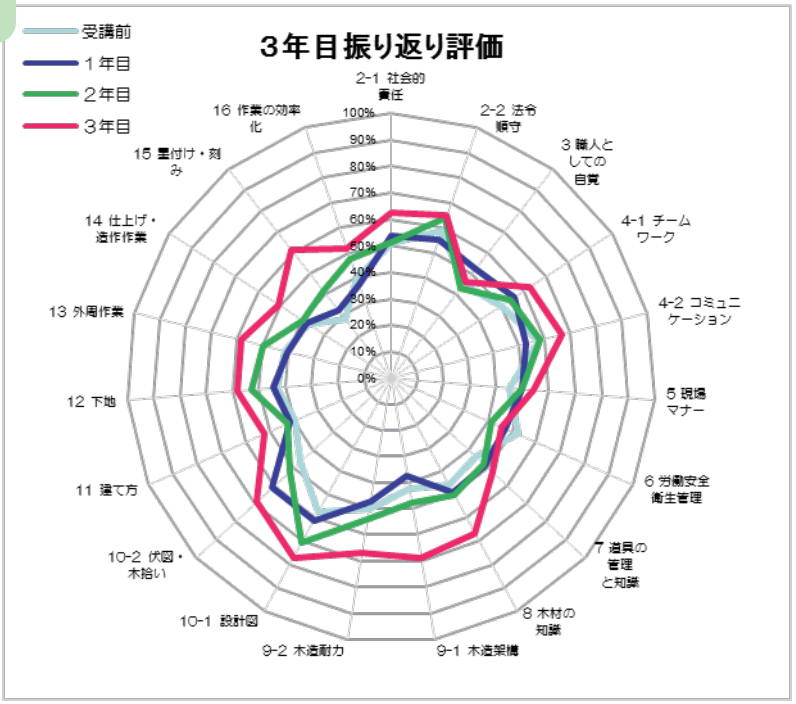
2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○建設業の週休二日制本格導入に対する不安の声が多いことから、懸案事項の洗い出しや 職人への周知理解、今までの賃金と同等の保障に対する対策などについても研修が必要と思われる。

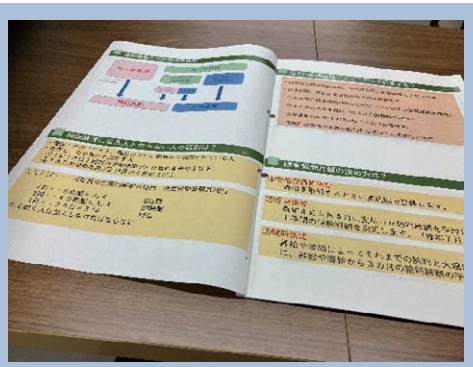
令和4年度　地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善
（日本の伝統的大工塾）【育成・確保】

育成出前講座

育成講座



確保研修会



大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域工務店が取組む働き方改革及び『大工技能者規矩術研修』

令和5年3月7日

（一社）福島県工務店協会

令和4年度　地域工務店が取組む働き方改革及び『大工技能者規矩術研修』
（（一社）福島県工務店協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**福島県福島市**	
事業期間	令和4年6月30日～令和5年2月9日（**約7ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：12名（男性12名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工：12名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**3名**　30歳代：**2名** 20-24歳：**6名**　40歳代：**0名** 25-29歳：**1名**
座学・実技研修	座学	**1回（福島市会場：1回）**
	実技	**15回（福島市会場：15回）**
	計	**16回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○【実技】大工技能講習会　15回
差し金の使用方法を学び、展開図を起こしてそれに沿って墨付けを行い、木ごしらえや刻み作業に代表する木材加工の基礎及び階段造作を学ぶことで、大工としての基本技能の向上を図る。具体的な研修内容は以下のとおり。
- ・道具の使用方法と手入れや刃物の研ぎ方等の基礎
- ・安全作業の心得　・階段造作演習
- ・墨付け、刻み、加工、組立等の規矩術
- ・墨付け加工技術の技術指導　・差し金の基本
- ・展開図演習　・屋根の墨付け等　・材料の木ごしらえ
- ・総括演習

○【座学】コミュニケーション講習　1回
- ・年齢が離れた先輩とのコミュニケーションの取り方と作業に対する意識の向上を図り、高齢化の進む建設労働者の中で活躍できる若手技能者を育成する。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○展開図を作製し自ら墨付け・加工を行うことで、完成イメージの理解が深まり、図面を読み取る速度が上がった。
○木ごしらえや刻み作業を行うことで木材の性質を理解し、カンナがけやノミを活用しての加工作業が上達した。
○道具を作業前後にチェックし調整・手入れを行う習慣と、安全を意識した作業姿勢が身についた。
○コミュニケーション講習を通じて、40代以上の先輩や上司と働く環境での情報共有の仕方や業務に対する意識が向上した。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○受講者の間でもレベルに差があり、作業が完了した受講者には次の作業に移って貰うようにしたため、進み具合に差が出てしまった。今後はより各受講生にあわせた進行を検討する。

○受講者の中には次年度の開催を望む声もあったことから、地域の大工就業者を育成する上で、本事業は有効である。大工育成には長期継続的な活動が必要である。

令和4年度　地域工務店が取組む働き方改革及び『大工技能者規矩術研修』
（（一社）福島県工務店協会）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**福島県郡山市、いわき市**	
事業期間	令和4年6月30日～令和5年2月9日（**約7ヵ月**）	
受講者数	実数	**確保：20名（男性15名、女性5名）**
受講者属性	種別	**大工関係者：17名** **その他（建設関係）：3名**
	年齢構成	20歳代：**0名**　50歳代：**7名** 30歳代：**3名**　60歳～：**3名** 40歳代：**7名**
座学・実技研修	座学	**2回（郡山会場：1回、いわき会場：1回）**
	実技	**0回**
	計	**2回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

○【座学】職場環境改善研修会（経営・労務管理者向け）
- ・建設現場労務管理の現状把握
- ・諸手当を活用した適正給与の作り方
- ・固定残業手当の支給方法
- ・人事評価制度の説明と運用方法
- ・定着率を上げる人事評価の作り方
- ・働き方改革を実行する生産性のあげ方

○建設業労務管理の現在の状況を共有し、今後取り組むべき課題とその解決手法を学ぶ。

○職場環境改善に取り組む工務店経営者及び労務管理者を育成する。

○県内2会場で実施（いわき市、郡山市）

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

○建設業労務管理の現在位置と取り巻く環境を学び、各社の問題点に気づきを与えることができた。
○同時に諸手当を活用した適正給与や人事評価制度など、今後取り組むべき課題とその解決手法を学ぶことで、受講者からは労務管理を整備する必要性を認識できたという声が多く上がり、各社の課題に取り組むきっかけづくりができた。
○新規入職者を獲得するためには、労務管理の整備が必要であるという認識を深めることができた。

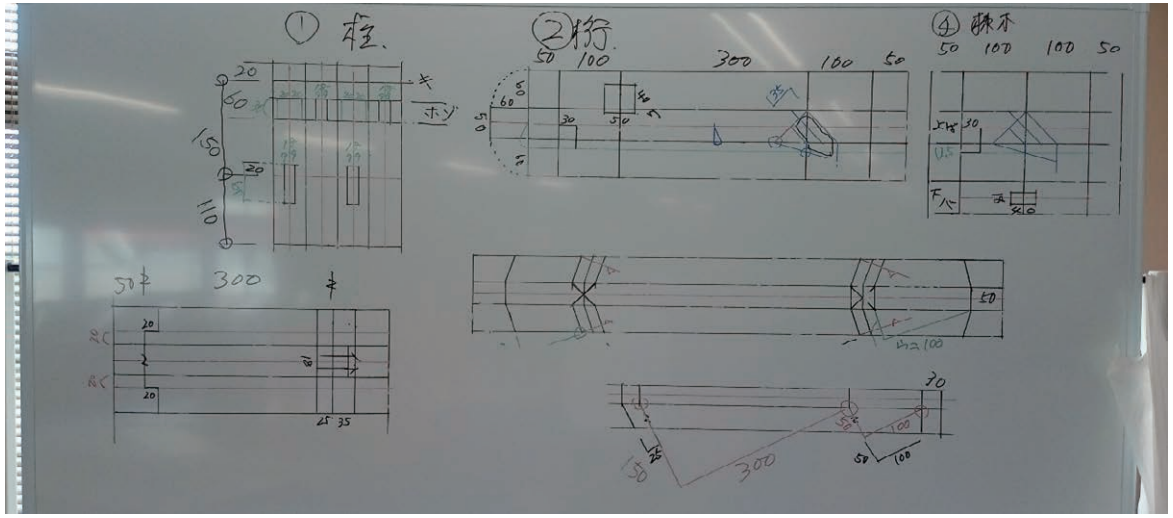
2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○受講者からは、若年層を採用する方法、パワハラ対策、インボイス対策等の追加セミナーを求める声もあった。
本事業の有効性を感じると共に、地域工務店が気軽に学べる場を提供する必要がある。

○持続可能な工務店を目指し、さらなる職場環境改善につながる研修を実施したい。

令和4年度　地域工務店が取組む働き方改革及び『大工技能者規矩術研修』（（一社）福島県工務店協会）

令和4年度　地域工務店が取組む働き方改革及び『大工技能者規矩術研修』（（一社）福島県工務店協会）



令和4年度　地域工務店が取組む働き方改革及び『大工技能者規矩術研修』（（一社）福島県工務店協会）

令和4年度　地域工務店が取組む働き方改革及び『大工技能者規矩術研修』（(一社)福島県工務店協会）

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

一般社団法人「東京大工塾」会員工務店の社員大工への大工育成プログラム

令和5年3月7日

（一社）東京大工塾

令和4年度　一般社団法人「東京大工塾」会員工務店の社員大工への大工育成プログラム（（一社）東京大工塾）　【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**東京都・埼玉県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年1月31日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：6名（男性6名、女性0名）**
受講者属性	種別	**社員大工：6名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**5名**　　20-24歳：**1名**
OJT	OJT指導	**144日／人** × 6名 ＝（864日）
	指導内容	安全衛生、道具の使用と手入れ 作業工程、作業方法　等

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○当会に所属する工務店が社員として雇用した大工を対象に、当会と工務店によって選定された大工が安全衛生や道具の使用方法、木工事の作業工程・作業方法等について指導。

○現代の若者にマッチした指導方法、作業工程の重要点を共有し、内容にバラつきのない指導を実施。

○当会と工務店との間で「OJT指導契約」を締結。

○職業能力評価シートを用いて習熟度の確認を行う。
目標は、指導者評価点数60点と設定。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】x

○塾生全員が統一された指導を受けたことで、道具の使い方や工程の流れを全員理解できた。
また、受講生全員怪我等のトラブルももなかった。職業能力評価シートでの習熟度の確認では、目標とした60点達成者は6名中1名だった。

○実際の現場で使用する道具についての知識を習得。指示を受けて所定の作業を行えるようになった。
職業能力評価シートを通して、効率を求めて早く作業することに熱中するのではなく、一つ一つの工程を丁寧に作業する方が効率的であることに気づくといった課題を認識することができた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○木造軸組工法における理解は順調に深まっているが、社会人としてのマナーや現場マナー等、技能以外の基本的な部分が足りない等の課題も残った。

○今年度は社会人経験があまりない新入社員が多かったことが、社会人マナー等技能以外の基本的な部分の点数を落としていることが、目標である職業能力評価シート指導者評価点数60点に満たない塾生が多い原因となってしまった。
新規採用の工務店と育成方法について情報共有を行い、技能以外について指導の必要がある。

令和4年度　一般社団法人「東京大工塾」会員工務店の
社員大工への大工育成プログラム（（一社）東京大工塾）　【育成】

建具調整指導

ボード施工

防水施工

ボード施工

遮音材施工

道具手入れ

令和4年度　一般社団法人「東京大工塾」会員工務店の社員大工への大工育成プログラム（（一社）東京大工塾）　【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**東京都**	
事業期間	令和4年7月15日～令和5年1月23日（**約7ヵ月**）	
委員数	実数	委員会：**16名** コミュニケーション講習会：**20名**
内容	種別	【委員会】 工務店経営者：**10名** 1人親方　：　**4名** 労務管理者　：　**2名** 【コミュニケーション講習会】 工務店経営者：**20名**
	実施	委員会：**8回** コミュニケーション講習会：**1回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

○今後、初めて指導する大工や塾生でも抜けのない教育を行うために、委員会でマニュアル作成に向けた協議を行った。各委員会の内容は下記の通り。
・指導マニュアルの内容について
・現役大工及び元大工との意見交換
・社員大工へのアンケート調査結果の確認・精査

○効果的な指導や離職抑制には、マニュアルを作成の前に、指導者も指導を受ける者もコミュニケーション向上が重要であるとの結論に至った。
・アンケート調査結果に対する委員意見のまとめ
・コミュニケーション研修の内容・予定について協議

○一社）話力総合研究所　理事長　秋田　義一氏をお招きして、コミュニケーションの重要性についての説明会を開催。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

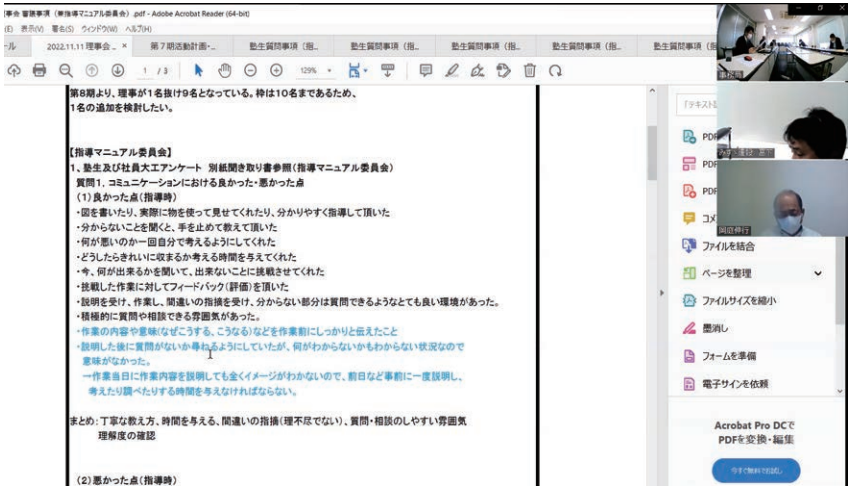
○職人の離職を防ぐためには、指導者のこれまでの「見て覚えろ」といったやり方は通じないことや日常的な声かけといったコミュニケーションを取ることの重要性に気づけた。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

○指導者は、どのように指導すればいいのかを学ぶ必要がある。
相手に合わせた話し方や聴き方を習得する必要がある。

令和4年度　一般社団法人「東京大工塾」会員工務店の社員大工への大工育成プログラム（（一社）東京大工塾）　【確保】

委員会



大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

新潟の地域工務店が取り組む伝統技能育成事業

令和5年3月7日

（一社）にいがた木造建築協会

令和4年度　新潟の地域工務店が取り組む伝統技能育成事業(（一社）にいがた木造建築協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**新潟県・燕市**	
事業期間	令和4年8月25日～令和5年2月9日（**約5ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：9名（男性9名）**
受講者属性	種別	**大工：9名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**0名**　30歳代：**3名** 20-24 歳：**6名**　40歳代：**0名** 25-29 歳：**0名**
座学・実技研修	オリエンテーション	**1回（会場：西蒲原高等職業訓練校・1回）**
	座学	**2回（会場：西蒲原高等職業訓練校・2回）**
	実技	**6回（会場：西蒲原高等職業訓練校・6回）**
	計	**9回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○座学
「棒隅木小屋組」、「振れ垂木小屋組」 基本規矩術講習
伝統的小屋組構造の「棒隅木小屋組」、「振れ垂木小屋組」の2課題と致しました。
基本である勾弧弦からの解説、それぞれにおける棒隅木・振れ垂木の考え方の解説、展開図の書き方手法の解説。
基本的勾弧弦の習得、展開図の習得に向けての講習を実施。

○実技
「伝統的和室造作」 実践的和室造作講習
伝統的和室造作を課題し、敷居・鴨居・長押・廻り縁・竿縁等の墨付け、納め方、刻み、取り付け手法、組立等の習得に向けての講習会を実施。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○座学：「棒隅木小屋組」、「振れ垂木小屋組」 基本規矩術講習
基本的勾弧弦を習得することにより、その他の伝統的小屋組に対応できる基礎知識を活用でき、展開図の書き方習得により、実践的に現場に対応・活用できる。

○実技：「伝統的和室造作」 実践的和室造作講習
実際の現場作業であまり経験ができない、和室造作を講習することにより、納め方の知識や技術を習得でき、今後の作業に十分に　活用・実践ができる。また、技能・技術の伝承が図られる。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○受講生の大工経験年数の違いにより、時間差が生じてしまう。
○受講生の大工経験年数により、理解度に差が生じた。
○受講生の理解・習得度を上げる為、繰り返しの講習も必要。
○受講生の出欠に対しての対応に苦慮をした。（受講人数の見直し）
○取組講習課題を事前にアンケート調査等が必要。
（開講中において、受講生から取組課題の要望が有った為）

令和4年度　新潟の地域工務店が取り組む伝統技能育成事業(（一社）にいがた木造建築協会）【育成】

○ 座学:「棒隅木小屋組」、「振れ垂木小屋組」 基本規矩術講習

令和4年度　新潟の地域工務店が取り組む伝統技能育成事業(（一社）にいがた木造建築協会）【育成】

○実技:「伝統的和室造作」 実践的和室造作講習

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

いしかわの大工技能者等育成研修

令和5年3月7日

（一社）石川県木造住宅協会

令和4年度 いしかわの大工技能者等育成研修(（一社）石川県木造住宅協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**石川県**	
事業期間	令和4年6月30日～令和5年2月9日（**約8ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：10名（男性10名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工：10名（見習いを含む）**
	年齢構成	20歳未満：**1名**　30歳代：**1名** 20-24歳：**4名**　40歳代：**1名** 25-29歳：**3名**
座学・実技研修	座学	**1回（金沢会場：1回）**
	実技	**5回（金沢会場：5回）**
	計	**6回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

＜実技＞

①大工職人としての基礎知識・製材体験（丸太から建物）
- ・道具の仕込みと管理、木材の性質・見極め・扱い方、
- ・規矩術の基本
- ・製材見学

②大工工事の基礎講座（4回）
実寸大の建築物製作にかかる作業の指導
- ・木取り、伏せ図の作成、矩計杖の作成、墨付け、各種手刻み、
- ・電動のこぎり・グラインダーの使い方、
- ・足場組
- ・羽柄材の製作・設置

＜座学＞

○労働安全管理について
- ・加工機械災害防止、墜落・転落災害防止
- ・安全帯の着用について説明

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○経験年数によっての差は否めなかったが、経験の浅い受講者も今回の実技研修により、大工の心得、大工道具や木材に関する 知識や技能が取得できたことがうかがえる。
グループごとに資材の刻み作業等を行うことにより、コミュニケーション能力も身につき、さらに、最後に一棟を完成させることで達成感を共有することが出来たと思われる。

○大工の安全管理について、墜落・転落 防止のために安全帯（ハーネス）の使用の重要性や、加工機械の取り扱いの注意点など、日頃の仕事に直結する内容を学ぶことが出来、考査の結果、正解率7割以上の合格となった受講者が8割となっていることからも理解度が確認できる。

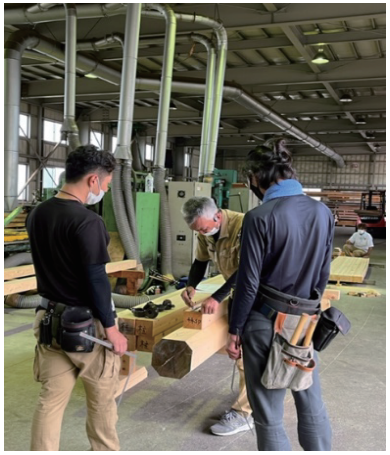
1-4. 今後の課題・改善点【育成】

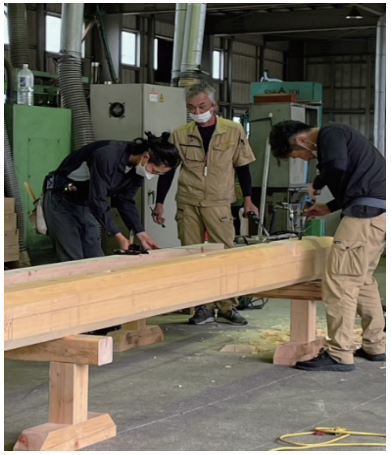
○実技研修で時間的に厳しく感じたので、回数を増やして余裕ある作業が出来るようにしたい。

○大工経験年数をもとに、長い人・短い人を組ませるチーム分けをしたが、経験年数だけでは測れない、素質的な差を感じる場面があった。若手に限らず、学びたい人、スキルアップを図りたい人も対象に広げていきたい。

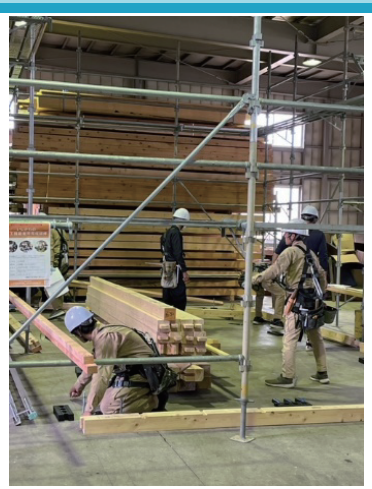
○受講生の確保が難しかったので、関連事業者団体へも積極的に協力をお願いしていきたい。

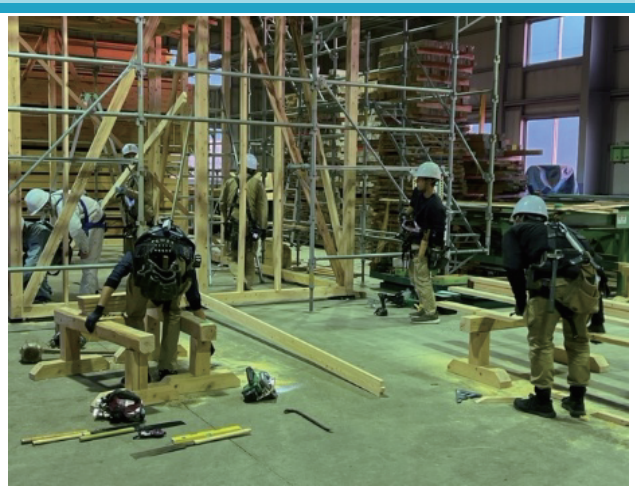
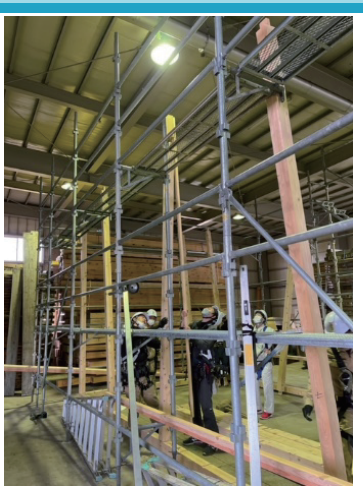
令和4年度 いしかわの大工技能者等育成研修(（一社）石川県木造住宅協会）【育成】

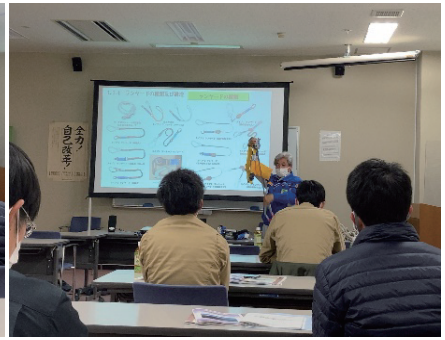


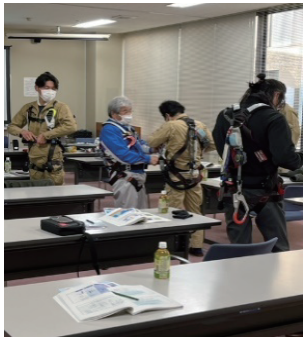


令和4年度 いしかわの大工技能者等育成研修(（一社）石川県木造住宅協会）【育成】







大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

静岡大工育成PROJECT2022

令和5年3月7日

（一社）富士山木造住宅協会

令和4年度　静岡大工育成PROJECT2022((一社)富士山木造住宅協会)【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**静岡県　西部地区・東部地区**	
事業期間	令和4年8月2日～令和5年1月26日（**約6ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：18名（男性17名、女性1名）**
受講者属性	種別	**大工：16名（見習いを含む）** **設計等：2名**
	年齢構成	20歳未満：**0名**　30歳代：**5名** 20-24歳：**9名**　40歳代：**2名** 25-29歳：**2名**
座学・実技研修	座学	**5回（西部会場：2回、東部会場：2回、合同1回）**
	実技	**25回（西部会場：13回、東部会場：12回）**
	計	**30回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

木造技能者育成検討委員会が設定している「レベル1」を目標とする木造軸組み在来工法を対象に下記の研修を静岡県西部（静岡木の家ネットワーク）15回と静岡県東部（富士山木造住宅協会）14回の研修会及び合同の労働安全研修会1回を開催しました。

9坪の木造住宅の構造躯体及び台持ち継ぎ・追掛大栓継ぎ・金輪継の手刻みの応用も完成することができました。

○西部会場（磐田市）
1年生実技【9坪木造住宅の墨付け、手刻み加工、建て方】
2年生【廻り階段の墨付け、手刻み加工及び階段の設置】
○東部会場（富士市）
1年生【9坪木造住宅の墨付け、手刻み加工及び建て方】

≪東部西部会場座学共通≫
【木造住宅の構造と架構と力の流れ、建築基準法・関連法令、フラット35 木造住宅の標準仕様書】

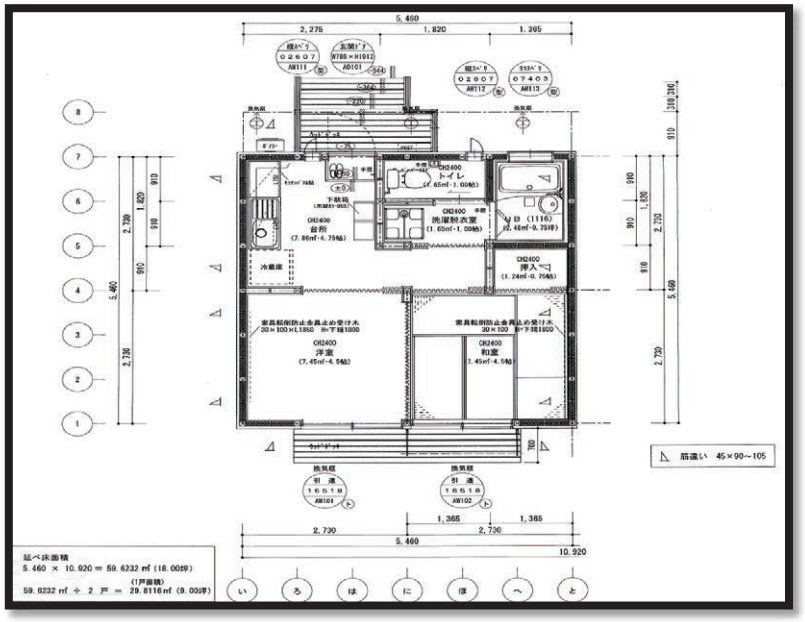
1-3. 事業の効果・成果等【育成】

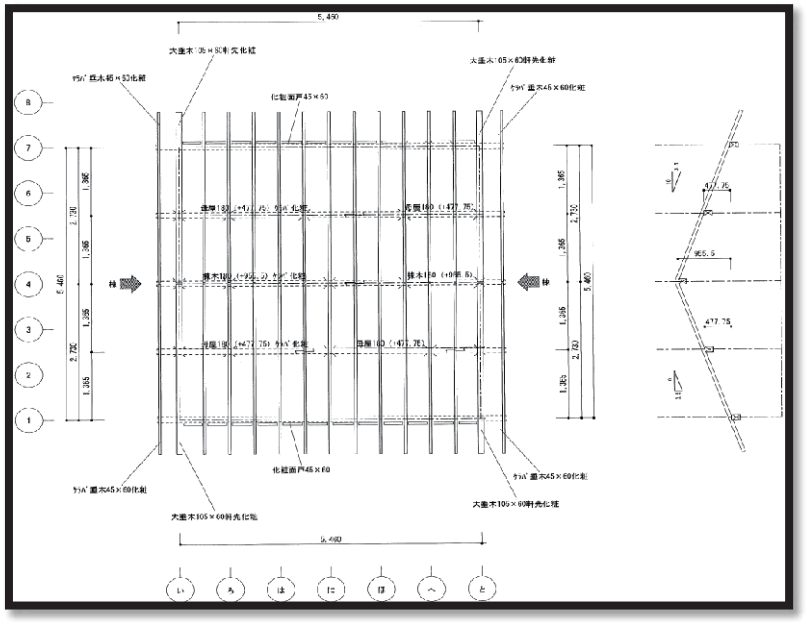
○静岡県のJBN連携団体の富士山木造住宅協会と静岡木の家ネットワークが連携することにより、4年間で81名の新人大工を育成することができました。新人大工は、研修会の受講により、①大工の心得②施工法や寸法の裏づけの習得③機械化された作業の中で失われつつある墨付け・手刻み等の修養④幅広い技術の習得等の成果が得られました。
それにより、静岡県内の新人大工育成の体制整備などの実現につながることができました。

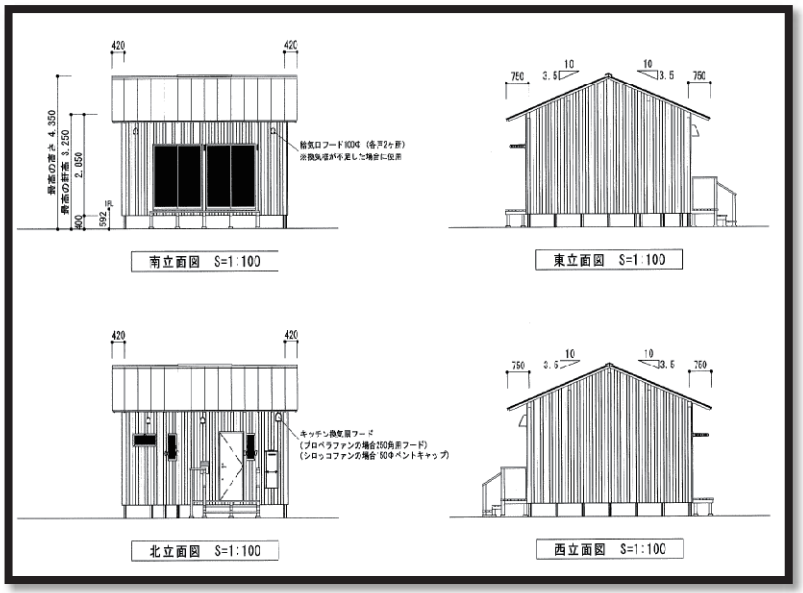
1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○研修生の中でも技能能力の差があるので、研修会半ば以降個別カリキュラムも必要だと思いました。また、大工仕事や職人技術だけでなく、PCスキルまで求められるようになっているのが大工の今の現状なので、PC座学も取り入れていきたいと思います。
○また、3年間育成活動をしてきましたが、本取組がまだまだ、静岡県内の新人大工に周知できていないことから、より多く関係団体及び行政等と連携して募集をしたいと思います。

令和4年度　静岡大工育成PROJECT2022((一社)富士山木造住宅協会)【育成】







令和4年度　静岡大工育成PROJECT2022((一社)富士山木造住宅協会)【育成】

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

地域ネットワークによる大工技術者確保・育成事業

令和5年3月7日

愛知県建設団体協議会

令和4年度　地域ネットワークによる大工技術者確保・育成事業（愛知県建設団体協議会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**愛知県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年2月9日（うち**約6ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：58名（男性58名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工　：17名（見習いを含む）** **その他（オンライン）：41名**
	年齢構成	20歳未満：**2名**　　30歳代：　**0名** 20-24歳：**2名**　　40歳代：**12名** 25-29歳：**1名** オンライン研修受講者の年齢構成は、不明
座学・実技研修	座学	**3回（愛知県：3回）、オンライン除く**
	実技	**22回（名古屋会場：18回、三河会場：4回）**
	計	**25回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○CCUSレベル2に満たない初級大工の育成
プレカット構造材を用いた木造軸組住宅の大工技能の基礎を教える3か年の3年目として育成プログラムを継続実施し、4名の受講者に対して最終的にCCUSレベル2相当に達することを目指し実施した。

○CCUSレベル2以上相当の大工技能者に向けた継続 研修の実施
大工育成研修を卒業した受講生や、CCUSにおいてレベル2以上相当の技能者に対し継続的な技能習得として短期の実技研修を実施する事で、更なる技術向上意欲の継続と、大工育成に向けた指導者の確保に向けて実施した。

○オンライン研修会を実施
大工育成の一環として、従来の研修に加え「アスベスト事前調査報告書の作成、現況検査等の知識の習得」「大工技能者の手刻　みの基礎（木の見方、木取り、接手編）」を公開しオンライン講習として実施した。

○育成事業検討会の開催（1回）
3年間の取り組みの集大成として、新規入職者の育成プログラム（育成カリキュラム）の効果の検証を行い地域性を考慮した育成カリキュラムの検討を行った。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○CCUSレベル2に満たない初級大工の育成
4名に対して実施し、目標とするCCUSレベル2相当の技能取得が80%以上を目指したが、2人の50%となった。未達者は、次年度も受講予定

○CCUSレベル2以上相当の大工技能者に向けた継続研修
受講者13名に対して実施、全員が講義内容に対して充実したものとして評価し、CCUSレベル3相当の手刻み技能の習得を全員が達成した

○オンライン研修
大工技能者の育成として工務店が求める大工の能力向上を図るために、オンライン研修を実施
41名が受講するも、Webテストが実施できず、理解度チェックは出来なかったがわかりやすいとの評価はあった。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○CCUSレベル2に満たない初級大工の受講生として確保が困難
長期間の研修となるため現場業務との調整が必須となる。

○現在実施している初級研修と上級研修の中間に位置する大工技能者への研修が必要
中級研修を受講することで、上級研修の受講者のすそ野を広げる
次年度実施を検討

○通年研修としてのオンライン研修の受講者のカウント、Webテスト実施の見直しをする

令和4年度　地域ネットワークによる大工技術者確保・育成事業（愛知県建設団体協議会）【確保】

2-1. 全体概要【確保】

実施地域	**愛知県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年2月9日（うち**約6ヵ月**）	
委員	実数	**確保：6名**
委員属性	種別	**大工・工務店関係者：6名**
委員会	委員会	**3回（名古屋会場：2回、三河会場1回）**
	計	**3回**

2-2. 研修活動等の概要【確保】

地域ネットワークにおける大工仕事情報の共有に向けた実証検証に向けたWGを3回実施。
名古屋、三河の2地域で仕事情報（依頼情報・空き情報）の共有を行い通常業務での大工職人不足を補い、新たな雇用意欲を生むことを目的とした。

1. 名古屋・三河地区でWGを実施し参加者に取り組み説明を実施
2. 検証　　：　6月～12月
3. 検証結果　：　用意したWebツールでは、内容の登録そのものに手間がかかるため、仕事情報（依頼情報・空き情報）の登録や更新は殆ど行われず、電話等の直接確認が中心となる結果が出た。
4. 第3回WGにて今後の対応を協議
   ツール等の活用は行わず「工務店グループ」「大工グループ」の連絡先共有のみで直接事業者間での対応することとし、緩やかにツールへの移行を目指すこととした。

2-3. 事業の効果・成果等【確保】

1.地域ネットワークにおける大工仕事情報の共有に向けた実証検証を、webツールを使い、名古屋、三河の2地域で行った。
2.実証の結果、メンバー登録は、完了したものの、内容の登録そのものに手間がかかるため、仕事情報（依頼情報・空き情報）の登録や更新は殆ど行われず、電話等の直接確認が中心となる結果が出た。
この結果、ツール等の活用は行わず「工務店グループ」「大工グループ」の連絡先共有のみで直接事業者間での対応することとした。

2-4. 今後の課題・改善点【確保】

1. 仕事情報の共有について
   「工務店グループ」「大工グループ」の情報（基本項目含む）を一瞥できる環境を整備する。

2. 雇用活動の実施
   地域ネットワークとしての雇用活動（募集）の開始する
   各事業者が、地域ネットワークのメンバーであることを公表し地域としての取り組みとして雇用活動を開始する。

令和4年度　地域ネットワークによる大工技術者確保・育成事業（愛知県建設団体協議会）

CCUSレベル2に満たない初級大工の育成

CCUSレベル2以上相当の大工技能者に向けた継続研修

WG（委員会）の模様

大工技能者等の担い手確保・育成事業
事業成果報告会

ひむか大工塾

令和5年3月7日

（一社）宮崎県建築業協会

令和4年度　ひむか大工塾（(一社)宮崎県建築業協会）【育成】

1-1. 全体概要【育成】

実施地域	**宮崎県**	
事業期間	令和4年5月20日～令和5年2月9日（**約9ヵ月**）	
受講者数	実数	**育成：7名（男性7名、女性0名）**
受講者属性	種別	**大工：7名（見習いを含む）**
	年齢構成	20-24歳：**3名**　30歳代：**2名** 25-29歳：**1名**　40歳代：**1名**
座学・実技研修	座学	**1回（宮崎高等技術専門校：1回）**
	実技	**12回（宮崎高等技術専門校：12回）**
	計	**13回**

1-2. 研修活動等の概要【育成】

○住宅建設や既存住宅のリフォームを推進するため、規矩術を理解し増改築等の現場で活用できる人材の育成を目的として、規矩術に重点を置いて以下のとおり若手大工の育成に取組んだ。
○事業主と受講者本人の希望及び技能レベルの到達度に基づき、構造材加工に取組む者1名、建築大工技能検定3級実技相当課題に取組む者1名、建築大工技能検定1級実技相当課題に取組む者5名の3グループに分け、同時並行して実施した。
○社会人・職業人としての自覚やマナー、労働安全衛生作業法、さしがねの使用法等の座学を実施した。
○構造材加工グループには、道具の知識・管理や継手・仕口の加工演習を、3級・1級グループには、規矩術の勾配図、棒隅木・振れ隅木・多角形の隅木、四方転び、現寸図作成及び墨付け・加工演習を実施した。

1-3. 事業の効果・成果等【育成】

○課題図面の寸法通りに工作・組立てられているか実技試験を実施、3級・1級実技相当の課題図面の寸法に対し、全員が許容される誤差の範囲内で工作・組立てることができた。

○継手・仕口の墨付け・加工課題に対し、建築現場で使用できる程度の精度を得ることができた。

○また、社会人・職業人としての自覚やマナー、安全意識を高めることができた。

1-4. 今後の課題・改善点【育成】

○魅力ある職場づくり
将来の担い手である新人大工の減少傾向に歯止めをかけるための賃金・休日・休暇等労働条件の整備、キャリア・パスの構築が不十分であり、社員化を加速させる必要がある。
○講師の育成
当協会が地域工務店向けに行う訓練プログラムの定着を図るためには、さらに指導法のレベルを上げる必要がある。
○受講者の確保
本事業の取組を一層浸透させ、担い手育成の機運を高める必要がある。

令和4年度　ひむか大工塾（(一社)宮崎県建築業協会）【育成】

令和４年度実施概要

令和４年度「大工技能者等の担い手確保・育成事業」実施団体における実施概要（育成の取組内容）

○　１７団体(団体主導型７団体、地域連携型１０団体)が行う大工技能者の技能向上のための研修活動や大工技能者が能力・経験に応じた処遇を受けられる環境整備の取組等に対する支援を実施。
（実施実績：研修1,183回（座学477回＋実技706回）、育成人数1,008人）。

【団体主導型】

No.	事業者	事業名	取組分類※1		実施地域	研修回数		育成人数
			育成	確保		座学	実技	
1	全国建設労働組合総連合	建築大工の担い手確保・育成支援事業	○	○	全国 (14地域)	68回	116回 （長期訓練・集中訓練） 1470時間 （長期訓練・分散訓練） 102回 （短期訓練）	146人
2	（一社）JBN・全国工務店協会	地域工務店の大工育成と地域連携大工育成プログラムの構築・実証	○	○	全国 (15地域)	30回	150回	122人
3	（一財）住宅産業研修財団	大工志塾	○		全国 (6地域)	282回	13泊14日×1回 （修了制作） ２泊3日×1回×5地域 （建築大工技能向上研修） 6泊7日×1回 （棒隅木） 6泊7日×1回 （合掌造）	95人
4	（一社）全国木造建設事業協会	災害時における応急仮設住宅・応急修理対応の大工育成	○		全国 (12地域)	5回	8回	225人
5	（一社）全国住宅産業地域活性化協議会	地域の建材店を中心とした地域の会大工担い手育成事業	○	○	全国 (11地域)	42回	121回	68人
6	（一社）全国古民家再生協会	伝統技術を活かした大工技能者の者育成プログラム	○	○	全国 (7地域)	21回	71回	45人
7	（一社）日本ＣＬＴ協会	CLT建築物の大工技能者等の担い手育成事業	○	○	全国 (1地域)	1回	1回	19人
						小計449回	小計577回※2	小計720人

※１【育成】…大工技能者等を対象とした木造住宅の新築・リフォーム等に係る研修
【確保】…育成に付随して実施する将来世代の確保（処遇改善等）に向けた取組
※２ 分散訓練（OJT）の日数は含めていない。

令和４年度「大工技能者等の担い手確保・育成事業」実施団体における実施概要（育成の取組内容）

【地域連携型】

No.	事業者	事業名	取組分類※1		実施地域	研修回数		育成人数
			育成	確保		座学	実技	
1	（一社）北海道ビルダーズ協会	北海道の工務店ネットワークによる大工育成	○	○	北海道	10回	6回	143人
2	（一社）東北建設技能協会	被災地宮城における大工技能者担い手育成・確保	○	○	宮城県	2回	26回	20人
3	日本の伝統的大工塾	地域連携型による伝統的大工の担い手育成および就労環境改善	○	○	山形県	3回	12回	5人
4	（一社）福島県工務店協会	地域工務店が取組む働き方改革及び『大工技能者規矩術研修』	○	○	福島県	1回	15回	12人
5	（一社）東京大工塾	一般社団法人「東京大工塾」会員工務店の社員大工への大工育成プログラム	○	○	東京都	-	144日×6人（分散訓練）	6人
6	（一社）にいがた木造建築協会	新潟の地域工務店が取り組む伝統技能育成事業	○		新潟県	2回	6回	9人
7	（一社）石川県木造住宅協会	いしかわの大工技能者等育成研修	○		石川県	1回	5回	10人
8	（一社）富士山木造住宅協会	静岡大工育成ＰＲＯＪＥＣＴ2022	○		静岡県	5回	25回	18人
9	愛知県建設団体協議会	地域ネットワークによる大工技能者確保・育成事業	○	○	愛知県	3回	22回	58人（うち41人はオンライン）
10	（一社）宮崎県建築業協会	ひむか大工塾	○		宮崎県	1回	12回	7人

※１【育成】…大工技能者等を対象とした木造住宅の新築・リフォーム等に係る研修
【確保】…育成に付随して実施する将来世代の確保（処遇改善等）に向けた取組
※２ 分散訓練（OJT）の日数は含めていない。

小計28回　小計129回※2　小計288人

令和４年度「大工技能者等の担い手確保・育成事業」実施団体における実施概要（確保の取組内容）

【団体主導型】

No	事業者	実施概要（確保の取組内容）
1	全国建設労働組合総連合	（1）高校生等を対象にしたキャリア教育 （工業高校で梯子作りの実習）
2	（一社）JBN・全国工務店協会	(1)入職者確保に向けた取組みの検討と実証 （新規の大工技能者の雇用環境の改善に向けた、就業規則、賃金規定等のモデルプランを作成し、会員工務店へ提示） （2）雇用大工・取引先大工の業務平準化 （工務店ネットワークを介した手すき（一定期間仕事が空いている）大工技能者の活用の検討と実践をWGで行う）
3	（一社）全国住宅産業地域活性化協議会	（1）地域ネットワーク委員会（山梨県・山口県） （仕事情報・大工の空き状況をGoogleカレンダーなどのツールで共有する事で大工技能者の仕事の平準化を図る実証実験、「大工の魅力」を広く伝えるPR動画の作成、就業規則・給与体系のモデル作成による処遇改善への取組、合同企業説明会の企画）
4	（一社）全国古民家再生協会	（1）YouTubeを活用した動画配信 （伝統構法の耐震性、古材の加工方法、光つけの動画を配信し若年層へ周知するとともに、動画制作を通じた熟練大工の技術を伝える意識の醸成を図る）
5	（一社）日本ＣＬＴ協会	（1）WEB講習の実施 （ＣＬＴパネル工法の施工、設計などの基礎知識に関する講習）

【地域連携型】

No	事業者	実施概要（確保の取組内容）
1	（一社）北海道ビルダーズ協会	（1）職業・技能研修 （大工を目指す専門学校生に工務店の会社の姿勢、大工職の技能、社会人への心構えを説明） （2）キャリアアップシステム研修会 （CCUS導入への周知と取組強化へ向けた研修） （3）指導者研修会 （スポーツコーチングメソッドによる技能だけに偏らない指導方法、TWI（仕事の教え方）監督者訓練による仕事の指示方法の習得） （4）大工育成マニュアルの作成 （地域工務店経営者のためのガイドブックの原稿作成）
2	（一社）東北建設技能協会	（1）大学生等を対象にした実習 （リノベーションや桁・梁・隅木等の加工組立講習）
3	日本の伝統的大工塾	（1）中小工務店を対象にした社会保険に関する研修会 （社会保険加入の手続や保険料の算出方法等について説明し、加入の必要性と加入促進を図る。最終的には社会保険加入建設業者が増えることにより、若手就労者の確保につなげる）
4	（一社）福島県工務店協会	（1）職場環境改善研修会 （離職者が出る原因、職場定着率を上げるために必要な対応、建設業のイメージUPにつなげる改善について学ぶ）
5	（一社）東京大工塾	（1）指導マニュアル作成委員会 （はじめて指導役となる大工向けの、抜け目のない教育を行うためのマニュアル作成について協議）
6	愛知県建設団体協議会	（1）地域ネットワークにおける大工仕事情報の共有に向けた実証検証 （webツールによる実証検証、WGの開催）

令和４年度　国土交通省補助事業

木造住宅・都市木造建築物における生産体制整備事業
（うち、大工技能者等の担い手確保・育成事業）

「令和４年度　木造住宅・都市木造建築物における生産体制整備事業（うち、大工技能者等の担い手確保・育成事業）　事業成果報告書」

発行・編集：一般社団法人木を活かす建築推進協議会
〒107-0052　東京都港区赤坂2-2-19　アドレスビル5F
URL　http://www.kiwoikasu.or.jp
協　　力：株式会社アルセッド建築研究所
発　行　日：令和5年3月

無断複製を禁ず